



東京歯科大学広報



東歯祭実行委員とピバノスケ、そして東歯祭を盛り上げた千葉ロッテマリーンズのマーくんファミリー・M☆Splash!! と共に
：平成24年10月27日(土)、千葉校舎講堂前

第44回東歯祭開催

第44回東歯祭が平成24年10月27日(土)・28日(日)の2日間にわたり開催された。今年は杉浦貴則実行委員長(3年)を中心に精鋭実行委員が丸一となって企画・準備・運営にあたった。天気予報では最終日は雨の予報だったがみ

んなの思いが届いたのか穏やかな天候に恵まれた。恒例となっている展示部門では多くの人が足を止めて学生の説明に耳を傾け、模擬店前では子供連れの家族が美味しそうに食べ物を頬張る姿が見られた。荒牧陽子スペシャルものまね

2012年10・11月

257号

本号の主な内容

- ・第44回東歯祭開催 1
- ・教職員への移転関係報告(12) 6
- ・東京歯科大学台湾同窓会から大学へのご寄付 15
- ・平成24年度文部科学省「私立大学教育研究活性化設備整備事業」に採択 15
- ・東京歯科大学と慶應義塾大学医学部が、歯学と医学の進歩と発展に向けた大学間の連携協定を締結 17
- ・平成24年度科学研究費補助金交付決定 25

ライブや地元千葉に本拠地を置く千葉ロッテマリーンズからもマークンファミリーと公認チアパーフォーマー「M☆Splash !!」が今年も参加し、ダンスショーなど華やかな演出で盛り上がった。千葉西高等学校吹奏楽部の演奏や近隣の児童によるちびっこダンス等の参加協力もあり、2日間で約2,000名を動員した大学祭となった。



息の合った振り付けで観客を魅了するダンス部員：平成24年10月27日（土）、千葉校舎厚生棟前メインステージ



青空に吸い込まれる心地よい音色を奏でる千葉西高校吹奏楽部：平成24年10月27日（土）、千葉校舎厚生棟前メインステージ



ガールズバンドが弾けてステージを盛り上げるMLS：平成24年10月28日（日）、千葉校舎厚生棟前メインステージ



寒さを感じさせない力強い演奏を披露したBig Band Jazz部：平成24年10月27日（土）、千葉校舎中庭円形ステージ



一つ一つの音が重なり美しいハーモニーを奏でた管弦楽部：平成24年10月28日（日）、千葉校舎講堂



荒牧陽子ものまねライブのチケットを配布する学生：平成24年10月28日（日）、千葉校舎講堂

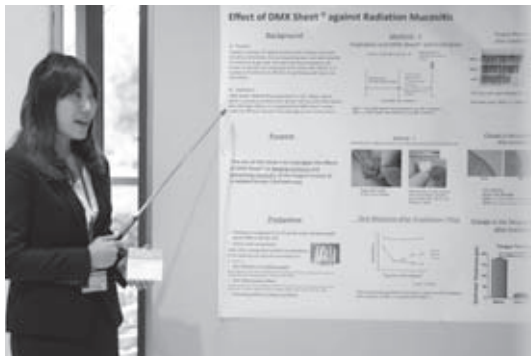


無料歯科相談で丁寧に対応する歯科衛生士専門学校生：平成24年10月28日（日）、千葉校舎教養棟

■展示部門

「講座・研究室展示」は、解剖標本室に毎年多くの来場者が訪れる。解剖学講座の先生から説明を受けながら普段見られない貴重な資料を見ることができ好評を得ている。

今年の「クラブ展示」は、延世大学校歯科大学との学生交流の評価が高く、国際医療研究会の展示とともに賑わった。また、写真部・美術部白亜会の作品展示も多くの来場者の目の保養となっていた。



英語ポスターコンペティションで最優秀賞に輝いた滝沢友里香さん（4年）：平成24年10月28日（日）、千葉校舎基礎棟



延世大学校との交流会を説明する濱田真衣学生会歯科学生交流会会長（4年）：平成24年10月28日（日）、千葉校舎教養棟

■模擬店部門

参加クラブが売り上げを競う東歯祭名物の模擬店は、15クラブが出店した。例年になく各クラブ共活気に満ちあふれ、元気の良い呼び込みの声が千葉校舎に響いていた。

そんな中、バドミントン部の「じゃがバター」、MLSの「ラーメン」、自動車部の「キャラメルポップコーン」が人気店となっていた。

会場は、長年に亘りクラブ部員が引き継いでい

る伝統の味や、時代の主流にのった新しい味に来場者が舌鼓を打っていた。



抜群のチームワークでホットドックを作るバスケットボール部員：平成24年10月28日（日）、千葉校舎管理棟玄関前



ワイルドな伝統の味で勝負する歯科衛生士専門学校生：平成24年10月28日（日）、千葉校舎管理棟玄関前

■バザー部門

東歯祭で行われるバザーは、毎年近隣住民の方々から好評を得ている。本学の教職員や学生が様々な思い出の品を持ち寄り格安の値段で提供している。新品同様の日用品やバカラグラスなど目玉となる出品もあり2日間賑わいを見せていた。今年は天候に恵まれたこともあり多くの品物を販売することができた。

なお、このバザーの収益金は昨年と同様に全額SHARE（国際保健協力市民の会）に寄付する。

■後夜祭

28日（日）午後5時30分より、教養棟第5教室にて中村光博学生部副部長、佐野 司国際渉外部長をはじめとする大学教職員と東歯祭を盛り上げた各クラブの学生が出席して後夜祭が行われた。始めに、杉浦貴則実行委員長が挨拶に立つと学生たちから大きな拍手が起こった。「今年は1年生の実行委員が少なく不安であったが、良き先輩、後

輩、また同期をはじめ、沢山の人に支えられてどうか無事に終えることができました。ありがとうございました。」と成功裏に終わった達成感と運営に携わってくれた協力者への感謝の念を込めた、杉浦君の人柄が顕れた挨拶があった。

続いて、クラブ展示部門、講座・研究室展示部門、模擬店部門の優秀団体へ新谷誠康学生部副部長から賞状が授与された。

英語ポスターコンペティションは、佐野国際渉外部長から表彰が行われ、滝沢友里香さん(4年)が最優秀賞、井上高暢君(4年)・岡澤亮平君(4年)が優秀賞を受賞した。

最後は教職員・学生が校歌を斉唱し、後夜祭は無事に終了した。



後夜祭で挨拶をする杉浦実行委員長(3年)：平成24年10月28日(日)、千葉校舎教養棟第5教室

■各部門賞

クラブ展示部門

- 第1位 延世大学校歯科大学との学生交流
- 第2位 国際医療研究会
- 第3位 写真部

参加講座・研究室展示部門

薬理学講座

模擬店部門

- 第1位 バドミントン部 「ジャガバター」
- 第2位 MLS 「ラーメン」
- 第3位 自動車部 「キャラメルポップコーン」

英語ポスター掲示 参加者

- 最優秀賞 滝沢友里香(4年)
- 優秀賞 井上高暢(4年)・岡澤亮平(4年)

■「東歯祭を終えて」

東歯祭実行委員長 杉浦貴則(3年)

去る10月27日(土)、28日(日)の両日に亘り開催いたしました『第44回東歯祭』は、多くの方の協力や支えによりお蔭様で無事に終えることができました。

私は、今年度の東歯祭実行委員長を務めるにあたり、まず初めに、『継承』という二文字をスローガンに掲げました。これには、今春からさいかち坂新校舎に入学した1年生と共に、先達が培ってきた43回分の伝統を受け継ぎ、これからも大切にしていこうという思いを込めました。こうした思いが功を奏し、去年に引き続き行った、千葉ロッテマリーンズのチアリーダー M☆Splash!!のステージやビンゴ大会など新しい企画が好評を得て、2,000名を超える方々にご来場いただきました。

開催前には、果たして無事に当日を迎えられるのかと幾度となく不安になりましたが、最後まで力強くサポートしてくれた副実行委員長の矢崎龍彦君(3年)をはじめ、先輩方や同級生、下級生、歯科衛生士専門学校の実行委員の皆の協力もあり、初日を迎えることができました。

今回の活動を通じ、私は仲間の大切さや1つの物を作り上げていく難しさを改めて痛感いたしました。振り返れば、楽しいことばかりではなく辛いこともありましたが、仲間と共に過ごした数ヶ月間はとても素晴らしい経験となり、今では全てが懐かしく思えますし、1度しか出来ない実行委員長の大役を務めることができたことを嬉しく思います。

来年度から、東歯祭は会場を千葉キャンパスから水道橋キャンパスへと移します。どのような形態で開催されるかは未知数ではありますが、これから新しい東歯祭をコーディネートしていく後輩に、今後は先輩の立場から、良きアドバイスが出来ればと思慮いたします。

最後になりましたが、多面においてご協力いただきました、教職員の皆様をはじめ、近隣住民の皆様、全ての方々に感謝いたします。

本当にありがとうございました。

水道橋キャンパスニュース

■水道橋本館校舎（仮称）建設工事現況



9階講座研究室（平成24年11月現在）



9階講座研究室（平成24年11月現在）

■水道橋新館校舎（仮称）建設工事現況



建設工事現況（平成24年11月24日現在）



建設工事現況（平成24年11月24日現在）



血脇ホール施工状況（平成24年11月21日現在）

移転関係報告

平成24年10月17日

教職員への移転関係報告(12)

理事長 金子 讓
学長 井出 吉信

教職員 各位

移転に伴う将来計画検討委員会等の設置について

移転に伴う下記の検討委員会等を設置いたしましたのでご報告いたします。

1. 将来計画検討委員会

『学校法人東京歯科大学将来計画検討委員会』

本検討委員会の下部検討会として

①『移転に伴う千葉校舎の将来構想検討会』

②『看護学部(仮称)設置検討会』

を設置いたしました。

2. 検討内容の審議決定

上記委員会等における検討内容の決定は理事会において行います。

教職員各位におかれては、今後とも移転計画の推進にご理解ご協力をお願いいたします。

■准教授就任のご挨拶



千葉病院内科

林 丈 晴

この度、平成24年10月1日付けで千葉病院内科准教授を拝命いたしました。

平成12年、手術や侵襲的治療も多いので、循環器的なりリスク評価、管理を行うというご要望があり循環器内科外来を始めさせて頂きました。その後研究留学し、帰国後は、本学理事、水野嘉夫先生が当時院長でいらした病院で内科、循環器、核医学臨床を行い、本年より本学で診療を再開させて頂きました。

世界的な高齢化、生活習慣病の増加を背景に心不全患者は我が国を含め世界的に著しく増加しております。研究は、これまで遺伝性の心不全の代表例である、心筋症を中心に行って参りました。幸運にも複数の新規原因遺伝子を同定し、変異に伴う機能解析を共に報告しました。米国では、原因遺伝子を機能喪失させた心筋症/心不全の動物

モデルに対し、生理、生化学的な解析と、開発中の特殊顕微鏡を用いた超微構造解析を行いました。得られた立体超微構造をベースとして、生物物理や応用数学の研究者と共に心筋の数理モデルの作成にたずさわり、遺伝子治療の仕事を報告いたしました。この経験を通して、異分野がうまく融合した際に良い物ができる事、科学の先進国にはその土壌が文化的にあることを実感しました。

今後本学で口腔疾患と全身疾患との関連について多面的な検討を行いたく思います。例えば、心不全患者は状況が悪化すると嚥下機能が低下して誤嚥性肺炎を引き起こし、さらに心不全が悪化、致命的状況となります。嚥下筋群や心筋、骨格筋の相違、関連性を様々なモデルを用いて解析し、新しい予防法や治療ターゲットの開発に結びつけば幸いと考えております。

分子遺伝情報を活かした個別化医療の構築、実践は世界的にも著しい勢いで臨床応用されつつあります。様々な他科の先生、他の専門の方々と協力し、多分野融合型のトランスレーショナルな研究や教育、そして安心を提供する診療、予防医療を実践していきたく存じます。お気軽にお声をかけて頂ければ幸いです。今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

学内ニュース

■第294回東京歯科大学学会評議員会ならびに総会開催

平成24年10月20日(土)・21日(日)の両日にわたり、千葉校舎と水道橋校舎で第294回東京歯科大学学会評議員会ならびに総会が開催された。

第1日目の学術発表は、千葉校舎の第1および第2教室を会場として口演が、第2ラウンジを会場として示説発表がなされた。今回発表された口演は30題、示説は13題であった。また、第1ラウンジで11商社の参加による商品展示が行われた。

第2日目は水道橋校舎の13階ルームAを会場として、午前中は下記1～4の、午後は5～7の特別講演が行われた。

1. 「ドライアイとQOL」

島崎 潤 教授(東京歯科大学市川総合病院眼科)

2. 「華麗なる加齢のためにーホルモン補充療法と女性のQOL」

高松 潔 教授(東京歯科大学市川総合病院産婦人科)

3. 「ジルコニアのインプラントへの応用の可能性」

吉成正雄 教授(東京歯科大学口腔科学研究センター、歯科理工学講座)

4. 「膝疾患に対する外科治療」

松井淳一 教授(東京歯科大学市川総合病院外科学講座)

5. 「労りのある口唇裂・口蓋裂手術をめざして」

内山健志 教授(東京歯科大学口腔外科学講座)

6. 「歯科医療と社会歯科学」

石井拓男 教授(東京歯科大学社会歯科学研究室)

7. 「臨床を見据えた解剖学研究と教育」

井出吉信 教授(東京歯科大学解剖学講座)

特別講演4と5の間の時間帯に13階ルームBで「平成24年度東京歯科大学学会評議員会ならびに総会」が開催された。この中で、前年度同評議員会ならびに総会で東京歯科大学創立120周年記念事業に伴う水道橋への移転に際し、施設設備や備品等の費用として東京歯科大学学会特別事業基金から2,500万円を大学へ寄付することが決議されたことを受け、本学会新谷誠康会計部理事より、井出吉信学長へ寄付金の目録が贈呈された。

また、同じ13階で6商社の参加による商品展示が行われた。



講演する井出教授：平成24年10月21日(日)、水道橋校舎13階ルームA



井出学長(右)へ新谷会計部理事(左)から目録の贈呈：平成24年10月21日(日)、水道橋校舎13階ルームB

■「hrc8公開講座」開催

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(hrc8プロジェクト)公開講座が、第294回東京歯科大学学会のサテライトとして、平成24年10月20日(土)14時より千葉校舎第2教室で開催された。出席者は学部学生、大学院生、教職員、併せて約60名であったが、内容の濃い質問を含めて活発な論議が交わされた。メインテーマは「唾液、歯周病、個別化予防・治療の最前線」であった。

本プロジェクトの研究経緯を述べた吉成正雄hrc8プロジェクトコーディネーターの挨拶に続いて、澁川義幸および阿部伸一グループリーダーの座長のもと、hrc8-1からは四宮敬史先生(薬理学講座助教)、hrc8-2からは国分栄仁先生(微生物学講座助教)、および林 丈晴先生(千葉病院内科准教授)の講演が行われた。

四宮先生は「なぜ唾液は大切か」をテーマに、唾液の持つ多様な働きを分かり易く解説した後、唾液分泌機能が低下した場合に惹起する多くの全身疾患を述べ、唾液は予防医学に重要な役割を担っていることを強調された。国分先生は「口腔上皮細胞に対する歯周病原性菌の侵入」について、慢性歯周病巣から高頻度に検出される Red complex と称される3種の歯周病原性細菌の病原性を解説した後、特に *T. denticola* の口腔上皮に対する侵入機構とその排除に向けた生体反応について明らかにし、その阻止による歯肉炎の予防さらには全身の健康への展望を述べた。林先生は「個別化予防医療、治療の今後の方向性」と題して、心不全が全世界的に増加傾向にあること、心不全の個別化予防、治療を考慮する上でのモデルとして、遺伝性の心不全を示す特発性心筋症について解説された。特に、林先生が留学時代に研究された原因遺伝子に関して、超高圧電子顕微鏡を用いた心筋超微細構造の立体再構築による解析は圧巻であった。最後に、歯周病を始めとした歯科疾患においても遺伝子情報に基づいた個別化予防が重要であることを強調され、これらの研究を成し遂げるためには「科横断的研究」が必須であるとする林先生のお考えは、口腔科学研究センターの指標になると考えられた。

(吉成正雄)



講演する林准教授：平成24年10月20日（土）、千葉校舎第2教室

■第116回歯科医学教育セミナー開催

平成24年10月22日（月）午後6時より、千葉校舎第2教室において、第116回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「熊本県・伊東歯科口腔病院の視察報告－診療と医局員教育の体制について－」と題し、口腔健康臨床科学

講座の山下秀一郎教授より、視察報告が行われた。今回の視察は、当病院の運営面の取組みや教育面の取組みを、本学の水道橋病院に還元させることを主目的に実施された。

はじめに、当病院について、施設や沿革等が紹介された。続いて、具体的な病院の運営体制について説明がなされた。必要最小限の設備や患者目線のサービスのはもちろん、ディスカッション時間を多めにとるなど、現状把握の徹底に努め、また様々な面で具体的な数値目標を設定するなど、スタッフ一人一人の意識を高める試みを実施しているとのことであった。

教育面においては、一人ひとりのモチベーションが高まるような、段階を追った研修制度が設けられ、また認定医資格取得を積極的に奨励し、オールラウンドな歯科医を目指す診療環境が確立されていた。

今回の訪問は、本学病院をさらに発展させていく上での新たな手法を得ることができた貴重な訪問となった。



説明する山下教授：平成24年10月22日（月）、千葉校舎第2教室

■平成24年度第5回水道橋病院教職員研修会開催

平成24年10月22日（月）午後5時30分より、水道橋校舎13階ルームBにおいて、平成24年度第5回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、感染予防対策に関する研修会として、サラヤ株式会社メディカル事業本部の遠藤博久氏を講師にお迎えし、「Standard Precaution - 感染対策の基本 -」と題した講演を伺った。

遠藤氏は、歯科医療において医療従事者が曝露する可能性がある病原微生物として、HBV・HCV・HIV・単純ヘルペスウイルスをあげた。感染経路としては、①血液、口腔内分泌物、その

他の患者由来物質との直接接触、②汚染物(器具、装置、環境表面など)との間接接触、③患者から(咳、くしゃみ、会話などで)放出された飛沫に対する粘膜、鼻腔または口腔粘膜での接触ならびに④空気感染性の微生物の吸入を列挙し、標準予防策の必要性を強調された。また、標準予防策の考え方として、全ての人が医療ケア現場で伝播しうる微生物を発症または保菌している可能性がある」と仮定し、感染症の有無に関わらず、全ての人に普遍的に適応可能な感染対策が必要と述べた。

更に、予防策として手指衛生・個人防護具について説明された。手指衛生については、アルコール手指消毒剤を使用した場合と、石鹸手洗いの場合との効果を比較したデータを示し、見た目に汚れがなければアルコール手指消毒剤を用い、汚れがある場合は石鹸と流水の手洗いを行い、汚れを取り除く事が望ましいと述べた。また、個人防護具については感染から医療従事者と患者を守る為、湿性生体物質等で汚染される可能性がある場合、必要に応じて着用する必要があると説明された。手袋・ガウン・エプロン・マスク・ゴーグル・フェイスシールドの着用の仕方・外し方・留意点について解説すると共に、個人用めがねやコンタクトレンズは防護具とはならない事も説明された。

標準予防策は、医療に携わる全員が十分に理解し順守する必要がある。ノロウイルスによる感染性胃腸炎が流行の兆しを見せている昨今、あらためてその重要性を認識する研修会となった。



講演される遠藤氏：平成24年10月22日(月)、水道橋校舎13階ルームB

■推薦入学選考、帰国子女・留学生特別選抜、編入学試験A、学士等特別選抜A試験実施

平成25年度推薦入学選考、帰国子女・留学生

特別選抜が平成24年11月10日(土)午前9時より水道橋本館校舎、大阪の天満研修センター、福岡のTKP天神シティセンターの3会場において実施された。推薦入学選考(指定校制含む)では98名、帰国子女・留学生特別選抜では4名の志願者が集まり、午前中に小論文、小テスト、午後には面接試験が行われた。また、編入学試験A、学士等特別選抜Aも同時刻に水道橋校舎で実施され、12名の志願者があり、小論文、小テストおよび面接試験が行われた。編入学試験Aの合格者は、来年度の第2学年に、学士等特別選抜Aは第1学年に入学する。なお、合格者には11月13日(火)に合格通知が発送された。

平成25年度一般入学試験(I期)・大学入試センター利用試験(I期)は、平成25年2月2日(土)に水道橋本館校舎および大阪(天満研修センター)、福岡(TKP天神シティセンター)の3会場において実施される。

■平成24年度修学指導関係者・父兄個別面談会開催

平成24年11月17日(土)に修学指導関係者・父兄個別面談会が第2・3・5・6学年は千葉校舎、第1・4学年は水道橋キャンパスで開催された。修学指導を必要とする学生を対象に、保護者及び学生と学年主任・副主任による3者面談方式で実施された。

なお、第4学年は父兄個別面談会と同日、新校舎開校に伴う在学生の移転に関する保護者への説明会も実施され、井出吉信学長をはじめとする大学関係者から水道橋キャンパス移転等についての細やかな説明が行われた。

■第117回歯科医学教育セミナー開催

平成24年11月20日(火)午後6時より、千葉校舎第2教室において、第117回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「平成24年度 Elective Study並びに今後の展望」と題し、2回目を迎えた“Elective Study”について、国際渉外部長の佐野 司教授、学生副部長の阿部伸一教授より、報告が行われた。

はじめに、佐野教授より“Elective Study”実施に至るまでの背景、経緯そして概要が説明された。

次に、台北医学大学に引率した阿部教授により、スライドを用いた報告がなされた。台北医学大学においては、主に病院等の施設見学、講義やディスカッションを中心にプログラムが進められた。また、見学だけでなく現地の学生との交流も積極的に行われた。昨年度に引き続き2回目ということで、昨年の反省を踏まえた上で改善されたプログラムとなり、また受入先の学生の中心メンバーが昨年のプログラムにも参加していた学生であったこともあり、昨年度以上に充実していたことがうかがえる学生の感想が多く見られた。

アルバータ大学においては、本学解剖学講座の松永 智講師が留学中であったため、学生の引率を引き受けていただき、現地での状況を、佐野教授より報告がなされた。今回は鹿児島大学の研修プログラムに参加する形で実施された。多領域の学生が参加したこともあり、歯科医学に限らず、歴史、教育や環境など幅広い分野を学ぶプログラムが生まれ、貴重な経験を積むことができたようであった。

最後に、佐野教授より、今回の取り組みを通じての課題や、それに対する改善策等が挙げられ、さらに来年度実施に向けての動きについて説明がなされた。今後、今回の結果を踏まえ議論・検討を重ねていくことで、学生一人一人のモチベーションを上げる取り組みへとさらに発展することが期待される内容であった。



説明する阿部教授：平成24年11月20日（火）、千葉校舎第2教室

■第7回東京歯科大学公開講演会開催

平成24年11月24日（土）午後2時より、千葉校舎講堂において、第7回東京歯科大学公開講演会が、地元千葉市美浜区真砂の関係団体（真砂地区コミュニティづくり懇談会、千葉市社会福祉協議

会真砂地区部会、千葉市第31地区町内自治会連絡協議会）との共催で開催され、美浜地区を中心に133名が来場した。

なお、今回の講演会も昨年同様に、平成24年4月から平成25年3月に千葉市内外含め各所で開催される「千葉市科学フェスタ2012」のサテライトイベントの一環としても参加することとなった。

当日は、橋本貞充広報・公開講座部長の司会・進行のもと、共催団体を代表して成田英雄会長よりご挨拶をいただき、次の講演が行われた。

講演『人類学から見たヒトの頭顔面部的特徴
顔や骨、歯の時代的变化(進化)と法的分野での役割』

法人類学研究室 橋本正次教授

講演では、ヒトの進化の流れの中での頭顔面部的変化を紹介しながら、人類学的見地からの今後を展望し、また顔や骨、歯の特徴からどのように個人を特定しているのかについて、わかりやすく説明があり、講演終了後には活発な質疑応答も行われ、午後3時30分に盛会のうちに終了した。

参加者アンケートでは「大変分かり易く、興味深いお話だった。」「今後も講演会を続けて欲しい



講演する橋本教授：平成24年11月24日（土）、千葉校舎講堂



講演会風景：平成24年11月24日（土）、千葉校舎講堂

い。」「橋本先生の大ファンなので、またお話を伺いたい。」などの意見がよせられた。

■平成24年度第6回水道橋病院教職員研修会開催

平成24年11月26日(月)午後6時より、水道橋校舎13階ルームBにおいて、平成24年度第6回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、前半が今年3月31日(土)に開催された「第1回東京歯科大学水道橋病院患者サービスに関するワークショップ」の報告を大多和由美准教授が、後半は「最近のヒヤリハット・アクシデント報告について」と題して関根秀志准教授が講演した。

まず、大多和准教授よりワークショップの目的として、現状の水道橋病院における患者サービスの視点から問題点を抽出し、参加者全員が自身の問題と捉えた後、その問題点について相互に協力し討議を重ねることで、対応策を検討し実行改善することである旨説明された。今回のワークショップ参加者30名の職種は、歯科医師、看護師、歯科衛生士、視能訓練士、歯科技工士、臨床検査技師、診療放射線技師、医事課事務職員など多様にわたり、6グループに分かれて問題点の抽出、討議、発表が行われた。その結果、診療現場(診療室、病棟)ならびに受付の問題点およびそれぞれへの対応策が挙げられた。診療現場については、案内表示の不十分さが指摘された他、院内改修工事に伴う各現場での患者への適切な配慮が求められた。また、人的要因に関しても、職員研修の充実や各部署での医療サービスの均一化等を望む声が挙げられた。受付については、待ち時間の明瞭化やスタッフの意識改革、医療スタッフとの連携等が課題として挙げられ、特に医局の分散による医療スタッフの所在が掴みづらいなどの問題点から、PHSの導入が望まれた。ワークショップから半年以上経過し、問題点のいくつかについて実際に改善の方向に向かっていていると実感できた。

続いて関根准教授より、ハインリッヒの法則についての解説からヒヤリハット・アクシデント報告の重要性が確認され、平成24年10月までの報告とその傾向について解説された。ヒヤリハット・アクシデント報告書の提出数については、この3年間で増加傾向にあり、特に10月の報告件数

が多かったと説明した。職種別では最も多かったのは看護師で、ヒヤリハットに対する意識の高さが伺われた。内容別では、治療・処置に関するものが3割近くを占めたが、それとほぼ同数あったのが「その他」に分類される内容で、患者の名前の取り違いなど思い込みによるものが少なくなく、各現場で複数の目によるチェックの必要性が示唆された。また、最近になって針刺し事故が7件続けて報告されており、あらためて注意が喚起された。

来年9月の大学移転を控え、院内の至る所で改修工事が行われている中、教職員は日々の診療に携わっている。今回の研修会を踏まえ、教職員全員が「良質の医療を心がける」という意識を高めるために有意義な講演であった。



講演する大多和准教授：平成24年11月26日(月)、水道橋校舎13階ルームB



講演する関根准教授：平成24年11月26日(月)、水道橋校舎13階ルームB

大学院ニュース

■カリフォルニアでの大学院Elective Studyプログラム

本年、最初の大学院Elective Studyとして鹿児島大学主催、東京歯科大学共催の国際プロフェッショナル養成プログラム in カリフォルニア（平成24年9月1日～30日）と海外研修基礎コース in カリフォルニア（平成24年9月15日～24日）がIT等の発信地であるシリコンバレーを中心に昨年に引



研修先のグーグル本社前での記念撮影



井上大学院生と研修先のStanford University, School of Medicine, Department of Genetics, Snyder labのメンバー



講演後にグーグルのシニアマネージャー木田氏に質問をする市野大学院生

き続き執り行われた。同プログラムは、歯科医師に限らず、将来国際的な場で活躍できる研究者、技術者、医師、教育者、起業家、弁護士、会計士などの養成を目的としている。それぞれのプログラムに事前のインタビューにより選考された井上健児大学院生（1年次）と市野茂人大学院生（1年次）が参加し、引率教員として佐野 司国際渉外部長が参加した。両大学院生とも朝早くから深夜におよぶプログラムに積極的に参加していた。

■第360回大学院セミナー開催

平成24年10月11日（木）午後5時40分より、千葉校舎第2教室において、第360回大学院セミナーが開催された。今回は、基礎教授連絡会からの推薦で、元横浜市長で現在、大阪市特別顧問の中田 宏先生を講師にお迎えし、「改革を行う、とは」と題した講演を伺った。

横浜市の改革でまず一つ行ったことが、ゴミ処理費用の削減である。まずはゴミの減量化にとりくんだ。相当の覚悟でゴミ総量を30%減らすため、多品種のゴミ分別を実施した。この分別でゴミ処理にかかる最も煩雑なゴミの選り分け作業が軽減し、5年計画の4年目で目標を達成した。また公共交通機関についても徹底的にリストラを行った。まず公共交通機関の建設には公共事業に対してあてられる市債が充てられていた。市長就任当時総額で2兆3千億円余の市債が存在していた。これは税金と関係ない別会計であるので、基本的には完済しなければならない。それなのに税金の繰り越しを見込んで野放図な市債拡大が続いていた。返済を考えたところ、初乗り料金を900円にしなければならないことが判明した。そこで、この事実を公表し、私営化したり、リストラしたりして、ギリギリまで削減し、残りを税金で賄うようにする計画をガラス張りで行い、ついに黒字化を実現した。

まさに実情を直視して、取るべき方策を明確にしていくことが大切であることが証明された。自治体も個人も自立することが大切である。自立という意味には責任が伴う。今、地方は国に依存している。また国も地方を規制で縛ってきた。そこには責任が伴わないための無駄が横行する。自立

するための責任を自覚し、無駄のない良い自治を獲得することが実は個人にとっても利益のあることなのである。無駄を承知で無責任な行動をとると実は自らに禍、(負担)としてかえってくるのである。自立と責任、権利と義務が一体となってこそより良い社会が得られるのであると説明された。



講演される中田先生：平成24年10月11日（木）、千葉校舎第2教室

■第361回大学院セミナー開催

平成24年10月23日（火）午後5時40分より、千葉校舎第2教室において、第361回大学院セミナーが開催された。今回は、臨床検査病理学講座からの推薦で日本大学歯学部歯科保存学第Ⅱ講座の林 誠准教授を講師にお迎えし、「歯内療法における最近のトピックス」と題した講演を伺った。

歯内療法用セメント Mineral Trioxide Aggregate (MTA) を中心にご講演いただいた。歯内療法の目的は根管内の無菌化と緊密な封鎖であり、1961年にリーマーやファイルの規格化が提唱され Science として体系づけられた。以後、大きな変化はなかったが、1990年以降、歯内療法用機器や材料において顕著な発展が認められるようになった。根管拡大器具として、湾曲根管に対してしなやかに追従することによって拡大形成を可能としたニッケルチタン (Ni-Ti) 製のファイルの開発が行われた。微細構造を有する根管に対して、直視下での施術が困難であったが、歯科用実体顕微鏡(マイクロスコープ)の開発により根管治療の「可視化」と「精密化」が実現された。さらに、歯科用 CT (Cone Beam Computed Tomography; CBCT) により、今まで2次元のエックス線写真でしかわからなかったものが高解像度断層画像と3次元立体構築画像が得られるようになり、根管治療に対する有効性が格段に上がった。そして、逆

根管充填材、穿孔封鎖および直接覆髄などに使用できる歯内療法用セメント (Mineral Trioxide Aggregate; MTA) が開発され、従来のセメントと比較しても生体親和性および封鎖性に優れるという点で、有意に高い臨床成績が報告されている。

本セミナーによりこれまでの歯内療法から新しい技術、そして未来への展望が紹介された。



講演される林准教授：平成24年10月23日（火）、千葉校舎第2教室

■第362回大学院セミナー開催

平成24年11月21日（水）午後5時40分より、千葉校舎第5教室において、第362回大学院セミナーが開催された。今回は日本大学歯学部歯科理工学教室 米山隆之教授をお迎えし、「生体用チタン合金の開発と歯科応用」と題した講演を伺った。

チタンは耐食性、生体安全性、組織親和性に優れることから、生体インプラント用金属材料として広く用いられるほか、歯冠修復物、義歯床、矯正用ワイヤーに応用されている。これらデバイスとして金属材料は必須であり、力学的信頼性の点から金属を他の材料で代用することはできない。しかし、純金属のままでは耐力や強度が高くないため、大きな応力がかかる場合には、高強度チタン合金が応用されている。

本セミナーでは、まずチタンの基礎的性質について概説され、純チタンは歯科鑄造用金合金と類似の機械的性質を有し、耐力/弾性係数の値を比較すると、チタンと金合金は近似しているが、高強度チタン合金では非常に高い値を示すことを示された。合金種類が異なることで諸物性にも差があり、臨床応用におけるパフォーマンスも異なることを示された。また、現在歯科臨床で使用されるチタン合金の種類と特徴について、ISO規格採用への実例をもとに解説いただくとともに、矯正

用ワイヤーや根管形成用器具に応用されているチタンニッケル合金の特性をわかりやすく紹介いただいた。

チタンは金属アレルギーを起こし難い金属材料であるが、まったく起こさない訳ではなく今後の推移を見守っていくことの重要性を最後に示された。研究と臨床のいずれにも有意義と思われるセミナーであった。



講演される米山教授：平成24年11月21日（水）、千葉校舎第5教室

■がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 東京歯科大学インテンシブコースが開催される

平成24年11月30日（金）東京歯科大学市川総合病院講堂において、第4回「がん医療現場での口腔ケア」研修会が開催された。本研修会は本学が参加する「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」の中の支持療法委員会が主催するインテンシブコースで、毎年関東圏の大学附属病院やがん拠点病院に勤務する看護師、歯科衛生士を対象として、地域がん医療の現場における口腔ケアの均てん化を図ることを目的に行っている。まず本学がんプロが所属する大学院歯学研究科 東 俊文教授、本学市川総合病院 濱野孝子看護部長の挨拶に始まり、口腔がんセンター長 柴原孝彦教授による「医療における口腔ケアの重要性」と題した講演が行われた。続いて本学外科学講座 佐藤道夫准教授による「術後合併症と口腔ケア」、本学オーラルメディシン・口腔外科学講座 片倉 朗教授による「急性期・周術期における口腔ケア」と題した講演が行われた。午後は本学市川総合病院歯科衛生士による相互実習が行われた。実習に先立って、市川総合病院歯科口腔外科 土屋佳織歯科衛生士から、「東京歯科大学市川総合病院における口腔ケアの取り組み」、口腔がんセンター 清住紗代歯科衛生

士から「がん医療現場における口腔ケア～粘膜炎への対応～」についてのレクチャーを行い、その後20名の受講生が小グループに分かれ、口腔ケア実習を行った。当日の進行は本学がんプロコーディネーター 野村武史講師、支持療法部門 石崎 憲講師が務め、最後に市川総合病院歯科口腔外科 藤平弘子歯科衛生士長の挨拶、修了式が行われ、研修会が終了した。今後がん治療の重要な支持療法となる口腔ケアについて、本学が中心となり普及、推進していく予定である。



挨拶する東教授：平成24年11月30日（金）、市川総合病院講堂



講演する柴原教授：平成24年11月30日（金）、市川総合病院講堂



実習の様子：平成24年11月30日（金）、市川総合病院講堂

トピックス

■東京歯科大学台湾同窓会から大学へのご寄付

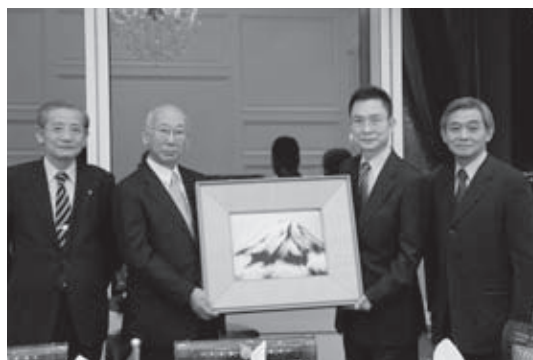
平成24年10月21日(日)、東京歯科大学台湾同窓会役員会が頂鮮101 餐廳(台北)において開催され、来賓として金子 議理事長、矢崎秀昭同窓会会長が列席した。

役員会では、本学大学院歯科麻醉学講座で学位を取得した蔡 鵬飛先生が台湾同窓会新会長に選出された。台湾同窓会は、今後ますます母校、同窓会本部との連携を深めることとなる。

金子理事長から昨年の東日本大震災についての迅速な支援に対する御礼があり、スライドを使って水道橋移転計画等の大学の現況報告があった。

次に矢崎同窓会会長から同窓会の現況、また新血協記念ホールへの同窓会からの寄付についての報告があった。

その後の懇親会では、台湾同窓会一同より、水道橋校舎施設整備資金(新血協記念ホール等)として33万台湾ドル(日本円で約90万円)の寄付の申し出があった。



金子理事長へ七宝焼の額を手渡す林 崇民先生(中央右)と蔡 鵬飛先生(右)：平成24年10月21日(日)、頂鮮101 餐廳(台北)



記念写真：平成24年10月21日(日)、頂鮮101 餐廳(台北)

引き続き現会長の林 崇民先生より、記念の品として七宝焼の額をいただいた。この七宝焼は林先生のご尊父、林 金生氏が、昭和40年代台湾の内務大臣在任時に日本の首相から贈呈された額で、この度大学に寄贈いただいた。最後にそれぞれ感謝の言葉が述べられ、懇親会は終了した。

全行程を通じ、台湾同窓会を挙げての手厚い歓迎に感謝し、翌10月22日(月)一行は台北松山空港から帰国の途についた。

■平成24年度文部科学省「私立大学教育研究活性化設備整備事業」に採択

文部科学省による私立大学(短大等を含む)の大学教育改革の支援事業である「私立大学教育研究活性化設備整備事業」に、平成24年度本学が申請した取組が採択された。平成17年度の特色GP、現代GP同時採択から平成21年度大学教育推進事業【テーマA】採択に引き続き、様々な実績を重ね、本学の教育が文部科学省に再度評価された。なお、このような競争的資金を獲得することは、教育改革の内容が社会的にも評価されたものと考ええる。

私立大学教育研究活性化設備整備事業とは私立大学が建学の精神と特色を生かした人材育成機能を発揮し、及び大学間連携を進め、もって社会の期待に十分に答える教育研究を強化し、進展させ、私立大学の教育改革のこれまで以上の新たな展開を図るため、基盤となる教育研究設備を整備することを目的としているものである。

本学は主として「主体的な学びへの転換を図り、学生の学修効果を最大限発揮するための効果的な教育を行うための環境を整備する取組」に申請し、書類審査を経て採択された。本学には事業に対して今年度に1,500万円が交付されることが決定された。

【本学の取組】

「習熟度混成授業での個に応じた学習実施のためのクリッカーの活用」

【取組の概要】

歯科医師を養成するという特性から、単に科目

の単位を取得するだけで終わりではなく、学年を経るごとに増える知識を着実に蓄積し、それぞれ科目間の関連性を十分に理解し、積み重ねる必要がある。

一方でここ数年、入学者の学力レベルの差が拡大していることから、従来通りの高いレベルの教育の維持と、多様化した学生に対応してそれぞれのレベルを向上させる効果的な教育を併存して行う必要性が高まってきた。しかしながら、歯科医師国家試験合格という共通のゴールがある以上、能力別クラス編成はなじまず、習熟度混成の授業を行わざるを得ない。これまでも、第1学年の補習時間の設置、学生への個別対応を行うオフィスアワーの設定、学年主任制によるきめ細やかな指導、プレ・ポストテストの活用、中間試験とそのフィードバックなどにより学力向上を図ると共に、成績優秀者には海外の大学への短期研修を設けるなど、多様な学習機会を設けていた。

今回の取組により、これまでよりもさらに個に応じた学習を推進し、下位層の成績を引き上げるだけでなく、上位・中位層もより高いレベルに引き上げ、社会に貢献できる優秀な歯科医師の育成につなげていこうとするものであり、グループ単位での学習の促進により、学生個々の積極性・能動性・協調性をさらに伸ばして行こうとするものである。

なお、今回の採択による文部科学省高等教育局からの審査の講評では、以下の通り付されていた。

【審査の講評】

インタラクティブな授業進行、学生の理解度のリアルタイムな把握に有効な機器を導入する取組であり、全学的な取組の理念と具体性ある計画が評価されました。大学教育としての質の向上と充実した教育活動の進展を図っていく上では、歯科医師国家試験合格を超えた大学教育の目標をどのように設定するか、入学生の学力格差対策を進めるためには機器導入による知識伝授型講義から学生主導型の教育スタイルへの転換をより志向すること等が重要と考えられます。

■平成24年度医学教育等関係業務功労者表彰(文部科学省)を受ける

千葉病院 巴 恵子 主任歯科衛生士
市川総合病院 宜保一夫 臨床検査技師

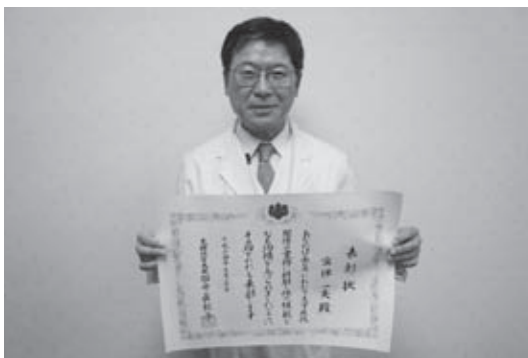
歯学部・医学部及び附属病院等において、教育・研究・患者診療等に長期間従事し、顕著な功労があった者に授与される当該表彰において、本学から推薦された千葉病院の巴 恵子主任歯科衛生士並びに市川総合病院の宜保一夫臨床検査技師が、全国の大学より推薦された候補者の中から、今年度の受賞者として選ばれた。

巴氏は、昭和50年から約37年にわたり歯科衛生士業務に携わり、その経験を活かした教員との連携、学生との関わり、患者との接し方など、その業務は他の職員の模範となっている。責任感が強く、温厚、誠実、協調性、積極性に富み、教職員だけでなく、患者からの信頼も厚く、大学院生をはじめとする多くの若手医局員やスタッフから相談を受けることも多い。昭和55年に主任歯科衛生士を任命されてからは、歯科衛生士長をよく補佐し、矯正歯科に勤務する歯科衛生士を統率し、業務の能率推進に務め、病院に多大なる貢献をしている。

宜保氏は、昭和57年から約30年にわたり臨床検査技師業務に携わり、平成4年には細胞検査士資格を取得し、病理検査の部門において中心的な



表彰を受けた巴主任歯科衛生士：平成24年11月22日(木)



表彰を受けた宜保臨床検査技師：平成24年11月22日(木)

役割を担ってきた。誠実、真面目で協調性があり、医師、コメディカルスタッフから頼りにされている。優秀なる技術と多年にわたる経験をもって誠心誠意尽力し、平成19年からは病理検査主任として業務の改善をはかり、病院に多大なる貢献をしている。また、千葉県北西部検査士研修会会長として研修会を開催し臨床検査技師の育成に係わる等、その活躍は多岐に渡っている。

それぞれの立場において、他の職員の模範となり、病院の発展に貢献してきたことが高く評価され、今回の受彰となったものである。

■東京歯科大学と慶應義塾大学医学部が、歯学と医学の進歩と発展に向けた大学間の連携協定を締結

東京歯科大学と慶應義塾大学医学部は、包括的な連携のもとで、教育・研究・臨床において相互に交流を深め、連携し、歯学・医学の進歩と発展に向けて、学術活動を推進していくことに合意し、平成24年11月26日(月)午前10時30分より慶應義塾大学信濃町キャンパスにおいて連携協定の締結式を開催した。

本学からは井出吉信学長、加藤靖明大学事務部長が出席し、末松 誠慶應義塾大学医学部長と井出学長との間で協定書に調印がなされ連携協定が締結された。

従前より、本学と慶應義塾大学医学部は、教育・研究・臨床で人事交流が行われ、特に東京歯科大学市川総合病院(570床)には、多くの慶應義塾大学医学部卒業生が勤務し、病院相互の人事交流を実施してきた。口腔ケアと全身の健康の関係において、今後ますます連携を深めていく。

また、本学と慶應義塾大学医学部は、平成19年度にスタートした文部科学省の大学改革支援事業である「がんプロフェッショナル養成プラン」に連携大学として参加し、患者中心のチーム医療を牽引し、がん医療を担う医療人の養成を推進してきた。さらに、平成24年度には、新たに同事業において、慶應義塾大学を基幹校とするプログラム「高度がん医療開発を先導する専門家の養成」が採択され、引き続き本学が参加し、がんに特化した医療人の養成に取り組んでいる。

両校の教員(医師・歯科医師)を対象に、平等互恵の精神に基づいて、それぞれの独自性を保ちつ

つ、人材育成と人材交流、共同研究、学術情報交換などの連携交流を進めることを明文化し、協力体制を確立することで、これまでの両校の関係を維持・発展させるとともに、医歯学協働による新しい人材の育成と、学際領域、複合領域の研究教育を推進し、大学相互のより一層の充実・発展と社会への寄与を図っていく。



締結式の様子：平成24年11月26日(月)、慶應義塾大学信濃町キャンパス



末松慶應義塾大学医学部長(左)、井出学長(右)：平成24年11月26日(月)、慶應義塾大学信濃町キャンパス

■東日本大震災復興支援義援金の報告

本学では、東日本大震災による被災地の皆様の救援と復興を願い、震災直後から義援金募金箱を設置して募金活動を実施してきた。昨年9月(広報第251号19頁掲載)の義援金に続いて、千葉校舎では、今年11月に68,660円の新たな義援金を日本赤十字社に送り届けることができた。これらの善意あふれる義援金は、今もなお苦しい生活を強いられている被災地の方々の支援とそれらの地域の1日も早い復興のために役立てられている。(東日本大震災(東北地方太平洋沖地震)に対する東京歯科大学としての支援(9)、広報247号29頁掲載)

国際渉外部レポート

■延世大学校歯科大学との姉妹校調印式（延長）

延世大学校の副総長である Lee Chul 教授、元副総長 Son Heung Kyun 教授、歯科大学学長 Lee Keun Woo 教授、そして本学客員教授でもある Jung Han Sung 教授が来日され、平成24年11月21日（水）午後5時より、水道橋校舎5階特別会議室にて、延世大学校歯科大学との姉妹校協定延長の調印式が執り行われた。

本学からは、金子 譲理事長、井出吉信学長、町田幸雄名誉教授、一戸達也水道橋病院長、佐藤 亨学生部長が列席し、佐野 司国際渉外部長が司会を務めた。

水道橋病院臨床研修歯科医および登院中の第5学年学生が見守るなか、双方の協定書に調印がなされ、今後5年間の協定延長のはこびとなった。

金子理事長と井出学長からの歓迎の辞の後、Lee 副総長と Son 元副総長からは今後のますますの関係強化を図っていききたいとお言葉を頂戴し

た。今後、学生交流や Elective Study という学生レベルの交流はもとより教職員間での交流もさらに活発にし、両校の学術的發展やアジアでの歯科医学の發展に大きく寄与できるような協力関係をさらに強化したいという共通の認識が確認され、調印式は和やかに終了した。



調印式の様子（右から、Lee 歯科大学学長、Lee 副総長、金子理事長、井出学長）：平成24年11月21日（水）、水道橋校舎5階特別会議室



記念写真：平成24年11月21日（水）、水道橋校舎5階特別会議室

学生会ニュース

■関東歯科大学バスケットボール大会開催

「関東歯科大学バスケットボール大会優勝報告」 男子バスケットボール部 主務 伊藤慎一郎(3年)

千葉県松戸市で行われた関東歯科大学バスケットボール大会(平成24年11月18日(日)～12月1日(土))にて東京歯科大学バスケットボール部が優勝しました。

今大会には東京歯科大学、日本歯科大学生命歯学部、明海大学歯学部、鶴見大学歯学部、日本大学歯学部、昭和大学歯学部、日本大学松戸歯学部、神奈川歯科大学の関東の歯科大学8校が参加し見事、優勝しました。

この結果は日頃の練習に加え、バスケット部OB会の多大なるご支援、ご声援による賜物でもあります。この場をお借りして御礼申し上げます。また、さらなる向上を目指し努力する次第です。

バスケットボール部は選手8人、マネージャー5人で日頃は千葉キャンパスにある体育館にて週3日の練習をしています。人数は少ないですがチーム一丸となって練習に励んでいます。

また来年の夏には全日本歯科大学大会を控えています。これに向けて再びチーム一丸となって練習に励み勝利の美を飾るよう努力します。ありがとうございました。



関東歯科大学バスケットボール大会で念願の優勝を果たした男子チーム：平成24年12月1日(土)、千葉県松戸市

■第35回東京歯科大学管弦楽団定期演奏会開催 「第35回定期演奏会を終えて」

管弦楽部 団長 矢崎紗保(4年)

平成24年11月23日(金)千葉校舎講堂において、東京歯科大学管弦楽団・第35回定期演奏会は、

皆様のお添えを頂きまして無事大成功に終えることが出来ました。今回はドヴォルザークの交響曲第9番《新世界より》、ヴァイオリン独奏に篠塚義弘先生をお迎えしメンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲、シベリウスの交響詩「フィンランディア」を演奏致しました。当日はあいにくの雨にも関わらず、460名という講堂を埋め尽くす程のお客様に迎えられ、万雷の拍手を頂くことが出来ました。本番当日までは練習面や運営面など様々な苦労もありましたが、加藤広之管弦楽部部長はじめ、多くの管弦楽部OB・OGの皆様を支えられ無事演奏会本番を迎えることができ、本当に感謝しております。

演奏会を終えた今、多くの皆様の温かいご支援でこの演奏会を開催できたことを改めて強く感じることが出来ました。なかでも地域住民の皆様との繋がり、近隣大学の同好の方々との連携が大きな支えとなっており、そうした「絆」の面を含め、部員全員で頑張っ活動してきて本当に良かったと思っております。オーケストラの魅力は、皆が同じ方向を向いて一つのを創り上げ、感動を与えることが出来ることにあると感じます。そんな幸せを感じることが出来る部活に入り、素敵な仲間たちに囲まれながらこれまでやってこられたことを誇りに思います。

来年度以降も管弦楽部への変わらぬご支援をよろしくお願い致します。



大勢の観客を魅了したダイナミックな演奏を披露：平成24年11月23日(金)、千葉校舎講堂

図書館から

■本学教員著書リスト

(本学の教員名が標題紙に記載されているものに限定)

矢島安朝 [ほか] 編 歯科衛生士が知っておきたいよくわかる口腔インプラント
医歯薬出版 2012

矢島安朝 [ほか] 著 歯科インプラント治療のリスク度チェックとその対応：全身疾患別にかかる！ クインテッセンス出版 2012

○本学教員の著書については、特に収集に努めております。著書発刊のときには、図書館へ、ご一報くださいますようお願いいたします。

■Open Access Week 2012 研究者インタビューを実施

Open Access Week 2012特別企画として、平成24年10月22日(月)から26日(金)の5日間連続、研究者インタビューを実施した。題して、「【Open Access Week 2012 特別企画】突撃！となりの研究室」。Open Access Week：OAWは、オープンアクセスを広め、考えるためのイベント週間として、アメリカのSPARC主催のもと、毎年10月の最終週に設定され、いまや世界規模のイベントとなっている。日本国内の多数の大学で様々なイベントが催され、本学では図書委員の先生方を中心に5研究室を訪問し、インタビュー (<http://ir.tdc.ac.jp/irucan/interview.jsp>参照)を行った。微生物学講座・石原和幸先生、物理学研究室・望月隆二先生、有床義歯補綴学講座・上田貴之先生と山田将博先生、衛生学講座・松久保 隆先生、市川総合病院 オーラルメディスン・口腔外科学講座・片倉 朗先生にご協力をいただいた。先生方のオープンアクセスへの考え方や図書館利用に関する要望、移転に際してのご意見等、興味深く参考になる事を多く伺う事ができた。今後の図書館サービスに活かしたい。

また、研究者インタビュー実施について、11月21日(水)にパシフィコ横浜にて開催された第14回図書館総合展「DRF9：第9回DRFワークショップ「学術雑誌の変貌：フィンチレポート、

新BOAIイニシャチブ、英国最新事情」【第1セッション】イントロダクション：海外情勢解説、国内事例報告」フォーラムで鎌田美樹課員が事例報告を行った。インタビューを通して学んだ業務に活かせることを発表し、質疑応答も活発に行われた。



インタビュー記念写真：平成24年10月22日(月)～26(金)、千葉校舎、市川総合病院各研究室



事例報告する鎌田課員：平成24年11月21日(水)、パシフィコ横浜

■千葉市図書館情報ネットワーク協議会主催の「加盟館紹介展」に参加

平成24年10月27日(土)から11月6日(火)まで、千葉市図書館情報ネットワーク協議会主催の「加盟館紹介展」の展示が、千葉市生涯学習センター1階のアトリウムガーデンで開催され、本学も、図書館の紹介ポスターを展示した。

■第14回図書館総合展(11/20-22)関連フォーラムで講演

平成24年11月20日(火)第14回図書館総合展「ジャパンリンクセンター利用説明会～DOIで国内の電子学術コンテンツへの永続アクセスを可能に！～」と題したフォーラムの講演3「ジャパンリンクセンターの活用意義や期待」の中で、阿部潤也

閲覧係長が登録者側の立場より「機関リポジトリ meets DOI：その時、期待すること」という演題で講演を行った。DOIの普及、活用が期待される中、ジャパンリンクセンター普及分科会委員でもあり、機関リポジトリ担当者としての阿部閲覧係長の講演は参加者からの関心が高く盛況であった。



講演する阿部閲覧係長：平成24年11月20日（火）、パシフィコ横浜

■秋の文献検索講習会開催

春・夏・秋の連続企画として、秋の文献検索講習会「論文執筆に役立つ Scopus 講習会」と「医学文献検索講習会」を開催した。「論文執筆に役立つ Scopus 講習会」は、平成24年11月27日（火）午後6時15分より千葉校舎第1教室においてゼファービヨンド社、松山裕二氏を講師に迎え、開催した。当日参加者は30名であった。論文を執筆する際に役立つ Scopus の機能や活用方法について、実際にデータベースを検索しながら講演頂き、多くの参加者から講習会の内容が「役に立つ」と感じてもらったことがアンケート結果から確認でき、好評のうちに終了した。

また、「医学文献検索講習会」は、平成24年11月26日（月）図書館2階グループ学習室にて、パソコンを使った実習形式で開催した。「検索スキルをさらに磨く！」をキーワードに、医中誌Web応用編、PubMed応用編、電子ジャーナル編を開講し、参加者は5名で、アンケートでは参加者全員から講習会の内容が「役に立つ」と回答頂いた。

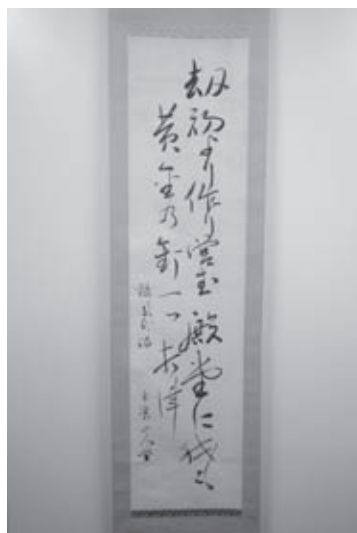
〈大学史料室から〉

■第44回東歯祭で、大学史料室を一般公開

第44回東歯祭が開催された平成24年10月27日（土）、28日（日）の2日間、例年どおり千葉校舎図書館1階にある大学史料室を一般公開した。今年はロビーに高山紀齋先生・血脇守之助先生・奥村鶴吉先生揮毫の書画12点を特別に展示した。高山先生の書画、血脇先生の書の腕前は周知のとおりだが、あまり知られていないが奥村先生の書も、血脇先生が「俺はただ書くが、奥村は書家だから一升さげて行け」と言うほど非常に達筆であった。今回は所蔵する掛軸2幅のうちの一つ「劫初より作り営む殿堂に我も黄金の釘一つ打つ」を展示した。来場者は両日で約250名、多くの方々が熱心に展示史料をご覧になり、好評であった。



掛け軸展示：平成24年10月27日（土）、千葉校舎図書館ロビー



奥村先生の書：平成24年10月27日（土）、千葉校舎図書館ロビー

歯科衛生士専門学校ニュース

■歯科衛生士専門学校登院式挙行

東京歯科大学歯科衛生士専門学校第63期生の登院式が、平成24年10月1日(月)午前11時より千葉校舎第2教室において、高野伸夫千葉病院長、尾谷始子千葉病院歯科衛生士長の臨席のもと、第1学年と第3学年の学生全員が列席する中で挙行された。

杉原直樹学生部長の司会のもと、高橋俊之副校長の呼名により、第63期の登院生一人ひとりが紹介された。はじめに石井拓男校長より臨床実習に臨む心構えについて訓辞を受けた後、来賓として臨席された高野千葉病院長からの訓辞があった。その後、登院生42名を代表して荻野あずさんが誓詞を述べ、登院生全員がこれに唱和して式を終了した。



緊張した面持ちで訓辞を聞く登院生：平成24年10月1日(月)、千葉校舎第2教室



登院式が終わっての記念撮影：平成24年10月1日(月)

■歯科衛生士専門学校平成25年度第I期推薦入学選考実施

東京歯科大学歯科衛生士専門学校の平成25年度第I期推薦入学選考が、平成24年10月18日(木)

に千葉校舎において実施された。募集人員40名の過半数を推薦入学により入学させるものであり、本年は県内から57名、他県から4名の61名が高等学校長の推薦により、また、平成21年度から始めた社会人特別選抜には12名(県内から9名、他県から3名)、合計73名が受験した。選考内容は、高等学校長の推薦は書類審査と基礎学力検査および面接であり、社会人特別選抜は、自己推薦書および書類による審査と、小論文および面接であった。入学選考は、午前9時30分から始まり、午後3時40分にはすべてが終了した。

合格の発表については、10月19日(金)に開かれた選考委員会で決定され、同日付けで出身高等学校長および受験生本人に通知された。

受験者数の推移については、本年度は、昨年度の実績(高等学校長の推薦53名、社会人特別選抜7名の合計60名)と比較して、13名もの増加があった。今後も、平成21年度より開始した指定校推薦の継続、積極的な学校訪問と学校説明会の開催などの取組を行っていく。昨今の厳しい経済状況とそれにとまなう就職難という社会状況の中、国家試験合格率100%、就職率100%を誇る本校の実績の継続が大切であると考えます。

■歯科衛生士専門学校第62期修学旅行

東京歯科大学歯科衛生士専門学校第3学年(第62期生)は、平成24年11月16日(金)、17日(土)の一泊二日の日程で北海道函館、小樽方面へ修学旅行に出かけた。

模擬試験、卒業論文の提出を終え、一時の休息を求めて、11月16日(金)早朝、羽田空港に集合し、修学旅行がスタートした。まずは、歯科衛生士国家試験合格祈願のため、学問の神様菅原道真公を祀った札幌八幡宮に向かい、御祈祷後、第62期生全員合格を願い絵馬を結んだ。その後小樽運河へと向かった。小樽運河で昼食をとり、小樽市内を観光した。その後、サイロ展望台に向かう途中では車窓から細雪をみることができ、洞爺湖サンパレスに宿泊した。

夜はお楽しみの大宴会が行われた。宴会では、盛り上がり、カラオケでは、各自が歌やダンスを披露し、大いに盛り上がった。宴会での盛り上がり

りを通して、第62期生が一致団結していることを確信した。

二日目は、昭和新山散策の予定であったが雨天であったため、大沼公園でジンギスカンを食べた。その後函館に移動し、函館市内を観光した。夜はロープウェイに乗り、函館山の100万ドルの夜景を観賞した。

笑顔溢れる貴重な時間を過ごし、気持ちを新たに歯科衛生士国家試験に挑むため、更に一致団結するきっかけとなった。今後も皆で協力し、春まで頑張ることを決意した。



大宴会にて一致団結した第62期生：平成24年11月16日（金）、洞爺湖サンパレス



函館山の展望台にて：平成24年11月17日（土）、函館

■歯科衛生士専門学校第62期生卒業研究発表報告会

東京歯科大学歯科衛生士専門学校では、3年制教育への移行に際して、卒業研究論文の作成を独自のカリキュラムとしてとりいれられた。この卒業研究を通して、学生たちには問題発見、問題解決能力を高めることを期待している。普段の生活や、講義、実習で、疑問に持っていることの中から研究テーマとなるものを探しだし、この問題について詳細に調べ問題点を解決していく過程を

学ぶ。東京歯科大学の各講座研究室および歯科衛生士専門学校の卒業研究論文担当の諸先生のご指導により、2年以上の時間をかけて行う。具体的には、資料を調べ、論文を読み、試行錯誤しながら、研究の立案や研究方法を選択し、そして実際の実験やフィールド調査などを行ってひとつの論文にまとめ上げた。第62期生全員の研究は、343ページにおよぶ厚い卒業研究論文集としてまとめられた。

また、平成24年11月22日（木）午前9時より東京歯科大学千葉校舎の講堂で、歯科衛生士専門学校の1学年から3学年全員と、論文指導の諸先生やその他の参加者を集め、第7回目となる卒業研究発表報告会が開催された。

発表報告会は学会形式をとり、受付から、座長、タイムキーパーなどの役割をすべて3年生が運営して行われた。石井拓男校長の開催挨拶につづき、6分間のPowerPointを用いたプレゼンテーションと、2分間の質疑応答が始まった。自分の研究を自信を持って発表する様や、フロアからの質問に緊張しながら答える姿は新鮮で、3年間の学生生活の総まとめとして、とても印象的であった。

研究テーマは、基礎から臨床の広い範囲にわたっており、ブラッシングやフッ化物など口腔ケアに関する研究や、歯科材料、喫煙や食習慣、味覚、口臭、マウスガード、特定保健食品さらに高齢者に関する報告などさまざまな角度からのフィールド調査、歯の微細構造、細菌学的研究など多彩で興味を持てるものであった。

研究開始時は先が見えず、不安がいっぱいの学生たちが、時間をかけて論文が形となり、その研究成果を多くの聴衆の前で発表することを通し



卒業研究発表報告会の風景：平成24年11月22日（木）、千葉校舎講堂

て、大きな達成感を得て行く過程は、学生たちの成長そのものである。この貴重な体験は、卒業後の臨床の場においても大きな自信となって返ってくるのではないだろうか。

今回の卒業論文の指導には、東京歯科大学の石原和幸、石上恵一、田崎雅和、眞木吉信、末石研二、茂木悦子、見明康雄、森永一喜、亀山敦史、坂本輝雄、杉山節子、中野洋子の各先生そして歯科衛生士専門学校の高橋俊之、杉山哲也、杉原直樹、白鳥たかみ、永井由美子、多田美穂子、江口貴子、山本茉里の各講師が、長時間にわたり、親身になって指導していただいた結果であり、学生たちにとっても大変思い出深い経験となったと信じている。

長時間にわたる研究発表報告会は、総評のあと

全員で記念撮影をおこない、終了となった。その後、衛生士学校のラウンジでささやかな懇親会が開かれ、なごやかで楽しい時間を過ごし閉会した。



質疑応答の様子：平成24年11月22日（木）、千葉校舎講堂



発表報告会終了後の達成感のなかでの集合写真：平成24年11月22日（木）、千葉校舎講堂

平成24年度科学研究費補助金交付決定

平成24年度科学研究費補助金は、独立行政法人日本学術振興会から、平成24年7月8日付で新規・継続採択分の配分額の決定が通知された。今年度より基盤研究(B)と若手研究(A)で一部基金化が導入された。

本年度、本学に交付される科学研究費補助金の研究種目別決定額および研究者別交付額は別表のとおりである。

平成24年度科学研究費補助金交付決定一覧

平成24年11月1日現在

研究種目	件数	交付決定額(千円)		
		直接経費(研究費)	間接経費	合計
基盤研究(B)	4	12,000	3,600	15,600
基盤研究(C)	28	28,700	8,610	37,310
挑戦的萌芽研究	3	4,100	1,230	5,330
若手研究(B)	18	19,300	5,790	25,090
研究活動スタート支援	1	1,200	360	1,560
合計	54	65,300	19,590	84,890

科学研究費補助金 平成24年度新規採択課題の要旨

基盤研究(B) 吉成 正雄 教授

「スタチン徐放性を制御した新機軸「母床骨改善型インプラント」の開発」

現在、口腔インプラントを高齢・骨粗鬆症患者へ適用するために、インプラント周囲母床骨を改善する治療法が求められている。その中で、骨形成能を有するとされるスタチンの臨床応用が期待されているが、スタチンの種類は数多くあり、それらの至適濃度、局所投与方法、徐放性制御技術が定まっていない。また、増生された骨がインプラント埋入に必要な骨質(強度)を有しているかについての検討も行われておらず、本剤の有効性を確認するまでには至っていない。本研究は、上記問題点を一つ一つ検証して、母床骨の改善に有効なスタチン徐放システムを見出すことにより、新機軸「母床骨改善型インプラント」を開発することを目的とした。

基盤研究(B) 井上 孝 教授

「セメント質・歯根膜複合体再生を目指した人工タンパクの開発」

本プロジェクトは、歯周病などで露出したセメント質または象牙質上に結合するセメント質結合

タンパク質または象牙質結合タンパク質を創製し、その上に歯根膜細胞に結合する機能性ペプチドを結合させ、再生現場において、確実に歯根膜細胞を増殖、セメント芽細胞などに分化させ、その結果、いままでとは異なるセメント質・歯根膜複合体(いわゆる歯根膜)の再生を目的とするものである。その結果、移植時に歯根膜が失われ露出した歯根でも、ひいては他家移植・異種移植の歯根でも、宿主に機能性歯根膜が再生生着し、元の歯牙と同様の機能発現が望めるものとする。

基盤研究(C) 石原 和幸 教授

「Polymicrobial infection による病原性変化の分子機構の解明」

歯周炎は、複数の歯周病原性菌の混合感染と宿主因子、環境因子によって引き起こされる感染症であり、タイプの異なる歯周炎においてはそれぞれに特異的な歯周病原性菌が関わる。デンタルプラーク中における複数の歯周病原性菌間の相互作用は、その構成菌種及び病原遺伝子発現に影響を及ぼし歯周炎発症に重要な役割を果たしている。本研究の目的は、バイオフィーム形成プロセスにおける特定菌種間の相互作用を解析し、それに関

わるメカニズムを分子レベルで明らかにすることである。最終的には複数細菌の感染 (polymicrobial infection) による宿主に対する病原性解析から、慢性歯周炎の発症機序解明・予防への応用を目指す。

基盤研究 (C) 澤田 隆 准教授

「接合上皮内側基板制御因子の探索と特定」

天然歯エナメル質と歯肉は接合上皮内側基板を介して密に接着している。内側基板は他の基底膜と異なり、ラミニン5を主体に構成された特殊な構造を呈しているが、この特殊性がどのように獲得され維持されているのか不明である。本研究は、ヒト歯肉3次元培養法を用い内側基板の特殊性を制御している因子を探索・特定し、天然歯-接合上皮の接着機構の本態を解明することを目的として企画されたものである。本研究で得られる成果は、臨床的にはインプラント体界面に対してより生体に近い強固な接着機構の付与に向けた新素材開発戦略に寄与できるものと期待される。

基盤研究 (C) 櫻井 薫 教授

「コラーゲン/ β 型リン酸三カルシウム複合体の骨伝導性と生体内崩壊性の評価」

骨生体材料の具備すべき特性として、良好な付形性、骨再生の足場を確保するのに十分な機械的強度、優れた生体親和性および生体内で吸収され骨に置換される生体内崩壊性が望まれる。しかし、それら全ての特性を具備した材料は未だ無い。今回、我々はコラーゲンスポンジと β -TCP顆粒を組み合わせた複合体がそれら全ての特性を具備する新規材料となりうる可能性に注目した。現在までの結果として、ラット頭蓋骨クリティカルサイズデフェクトモデルにおいて、本複合体材料は、組織再生の場を確保するために十分な機械的強度を有し、良好な骨伝導性を示すこと、また、骨治癒晩期に複合体は完全に骨に置換されることが示された。複合体の構成要素は厚生労働省許可材料であるため、前臨床試験である動物実験で有効性が実証された場合、臨床応用への実現性は高いことが期待される。

基盤研究 (C) 矢島 安朝 教授

「インプラント周囲上皮の口腔粘膜疾患に対するリスク評価法の確立」

インプラント治療患者の多くは口腔癌の発生が認められる年齢層に一致し、またインプラント周囲上皮は恒常的に慢性的炎症が見られる特殊な環境下であることから、癌を含む粘膜疾患のリスクが高いと考えられている。本研究ではゲノムレベルでの評価が可能となるマイクロアレイ法を用いて、口腔粘膜上皮との比較をすることでインプラント周囲上皮の経時的な遺伝子発現プロファイルの作成を行ない、自然発癌実験モデルにより同定された特異遺伝子群の発現を比較・同定を行なうことで、インプラント治療に伴う周囲軟組織へのリスクを評価することが出来ると考えた。本研究の成果により、将来的に術前・術後におけるインプラント周囲軟組織のリスク評価法が確立されるものと考えられる。

基盤研究 (C) 柴原 孝彦 教授

「次世代口腔がん検診システム・アルゴリズムの開発」

歯科診療の最前線にある一般開業医をサポートするシステムです。

世界的傾向でもあるように口腔がんの罹患率は増加傾向にあります。本邦では30年前と比較し約3倍、2015年にはさらに2005年次の1.5倍に増加すると報告されています。口腔がんの第一発見者が一般開業歯科医師である実態を鑑み、歯科医師がいかに口腔粘膜を診察する知識と技量を修得し「口腔がんを疑う目」を持つかが重要な課題となっています。

現在、本邦では「口腔がん検診」の必要性が提唱され、全国レベルで集団検診・個別検診の機運が高まっています。多くの一般開業歯科医師がこの活動に参画できるよう後方支援することを目的として、本システムを開発しました。

本学内に独自のサーバーを置き連携のある歯科医師会とクラウドを構築します。口腔粘膜疾患の診断に困った会員はシステムにアクセスし、呈示された問診票に従って必要事項と画像を添付し送信していただきます。直ちに教室内担当者(口外専門医取得)がコメントを作成し、今後の治療のサポートを行うという新たな検診システムです。

どうぞご利用ください。

基盤研究 (C) 山本 信治 講師

「口腔癌のマッピングアレイを用いた再発・転移関連遺伝子の解明」

癌治療において再発・転移の有無は重要な診断情報であり、その後の治療方針に大きく影響する。我々はこれまで、循環血清中の多くのfree DNA、中でも、腫瘍細胞のfree DNAの特定に成功し、再発・転移の早期診断や治療の効果判定に役立てている。現在までに行われた口腔扁平上皮癌におけるヘテロ接合性消失 (LOH) に関する研究から、多くのマイクロサテライト領域が判明している。このLOHの局在情報を癌細胞の指紋と考え、循環血清中の腫瘍free DNAの検出を行う研究を可能とした。さらに、口腔扁平上皮癌患者から抽出したDNAを用い、DNAマッピングアレイ解析を用いた全ゲノム上のLOHとコピー数異常の有無を検索し、その結果、数百～数千の口腔癌に関与する新規未知癌抑制遺伝子座位が一度に同定することを可能とした。

そこで、本研究はさらに発展させ、口腔扁平上皮癌患者から抽出したDNAならびにmRNAを用い、全ゲノム上のゲノムコピー数異常の解析ならびに同座位に存在する転移関連遺伝子候補をリストアップし、候補遺伝子のmRNA発現状況を定量的Real-time PCR法により検証する。この新探索方法が確実に実績が上げられ、体内に潜む再発転移細胞の早期発見に結びつけられれば、世界初の口腔癌の再発・転移関連遺伝子の同定に成功し、口腔癌の診断・治療の向上に大きく貢献することが期待される。

基盤研究 (C) 片倉 朗 教授

「唾液中の口腔癌関連タンパクをメタボローム解析でプロファイルする」

唾液が歯科臨床で簡便に反復して非侵襲的に採取できる絶好の試料であることに注目し、全唾液を試料とした口腔癌のスクリーニング検査の開発のためのバイオマーカーとなるべきタンパクを特定する。本研究では口腔癌患者の唾液をキャピラリー電気泳動-質量分析法メタボローム解析により網羅的に検索して、唾液に含まれる口腔癌のバイオマーカーとなるタンパク、酵素を特定し、そ

の抗体の作製を目標とする。得られた抗体をプロテインチップ化して診療所レベルで簡便に行なえる口腔癌のスクリーニング検査機器を作成することが最終目的である。

基盤研究 (C) 阿部 伸一 教授

「顎顔面再建治療へ向けた上皮-間葉ハイブリッド型細胞シートの創製プロジェクト

頰粘膜癌などによって広範な粘膜摘出後に、自己細胞による口腔粘膜細胞シートの応用が試みられているが、直下の筋層の再構築までは困難なことから治癒後の咀嚼・嚥下機能障害という問題点が指摘されている。本研究は、口腔、咽頭粘膜実質再生を実現するために、口腔粘膜上皮、口腔粘膜上皮下組織、筋組織から抽出された細胞を用いてそれぞれの細胞シートを作製し、それらを積層したハイブリッド型細胞シートの創製を目的とする。さらに積層シートの構造維持に必須な細胞骨格である中間径フィラメント、接着タンパクの局在について検証を行う。これにより、本研究は口腔、咽頭粘膜実質疾患の術後粘膜再生および機能回復に対する新しいアプローチとしての応用を目指す。

挑戦的萌芽研究 新谷 誠康 教授

「DMP1の分子進化医学的研究」

DMP1は象牙質や骨の石灰化および骨のホメオスタシスに関与する分子であることがわかっており、DMP1遺伝子が突然変異を起こすと常染色体性劣性低リン血症性くる病/骨軟化症を引き起こすことが報告されている。しかし、DMP1遺伝子は進化速度のきわめて速い遺伝子と考えられており、そのアミノ酸配列は生物種によって大きく異なっている。本研究では両生類においてDMP1分子の解析および遺伝子発現を解明し、その分子進化について探求する。DMP1が両生類においても同様の機能を発揮していることが判明すれば、DMP1の機能はアミノ酸配列よりもアミノ酸組成に依存していることになり、今後の医療研究におけるDMP1への着目点が変化すると考えられる。

若手研究 (B) 国分 栄仁 助教

「*Treponema denticola* の細胞侵入に関する病原性の解明」

本研究の目的は、*Treponema denticola* の病原性を細胞侵入のプロセスを解明することである。*T. denticola* は表層タンパク分解酵素によるサイトカイン分解作用、補体活性化作用、膜タンパクによるTLR-2刺激作用などの病原性を有し、慢性歯周病患者の炎症部位から高頻度に検出される歯周病原性菌とされている。しかしながら、本菌の組織細胞侵入メカニズムについて不明な点が多い。本菌の組織細胞侵入機序およびそのプロセスにおける宿主免疫からの回避機構を解明することにより、慢性歯周炎の発症における *T. denticola* の役割を明らかにし、病原因子抑制による慢性歯周疾患予防の開発へと応用する。

若手研究 (B) 佐藤 正樹 PF

「象牙芽細胞における歯内治療薬の作用と応用：侵害刺激受容と修復象牙質形成の機能連関」

歯内治療薬として頻用されるユージオール、グアヤコールの歴史は紀元前もしくは明治初期までさかのぼるが、未だその作用機序については明らかにされていない。本研究はこれらの薬剤が象牙質痛および歯髄痛を抑制する生理機構を明らかにすることを目的とする。我々は象牙芽細胞に発現するtransient receptor potential (TRP) チャネルに、これら薬剤の作用点があることを明らかにした。さらにこれらの試薬は適用時間に応じて細胞活性と不活性を誘導し、反応象牙質形成にも関与する結果を得た。本研究はTRPチャネルの活性機構を明らかにすることで効果的な象牙質形成をめざし、自歯保存研究の発展に貢献するだろう。

若手研究 (B) 山田 将博 助教

「歯肉線維芽細胞による骨芽細胞および骨膜細胞の機能発現の亢進」

臨床的に、豊富な歯肉結合組織の存在は、骨移植術や骨再生誘導法などの歯槽骨増生術の成功率と長期安定性を向上させると考えられている。しかしながら、その臨床的知見を裏付ける細胞生物学的機序はほとんど検証されていない。研究代表者は、ラット硬口蓋歯肉由来線維芽細胞と頭蓋骨由来骨芽細胞との共培養モデルを用いて、歯肉線

維芽細胞が骨芽細胞機能に与える影響を検索している。現在までの結果として、歯肉線維芽細胞は、FGF-1および-18を傍分泌することで、近傍の骨芽細胞のFGF-1および-18の自己分泌や骨基質産生能を亢進させることが明らかとなった。本研究は、上皮下歯肉結合組織移植後の経年的骨増生という臨床的所見の細胞生物学的機序の解明につながるだけでなく、補綴前処置としての上皮下歯肉結合組織移植の細胞生物学的意義を与えることに加えて、口腔生物学分野の学問的発展に寄与することも期待される。

若手研究 (B) 添田 亮平 助教

「チューイング力がストレス緩和に及ぼす影響」

これまで、当講座の研究によりチューイングによりストレスが緩和することが明らかとなった。また、若年者における研究で、チューイング条件(速度、力、時間)がストレス緩和に影響を及ぼすことも明らかとした。口腔内環境においては、咀嚼能率がストレス緩和に及ぼす影響も検討したところ、影響がないことが明らかとなった。今回、我々は義歯装着高齢者に着目し、チューイングがストレス緩和に及ぼす影響を明らかにすることを目的としている。ストレス緩和の検討には唾液中のコルチゾールとアマラーゼを使用する。この研究により、義歯装着高齢者においてチューイングとストレス緩和との関係が明らかになり、口腔内からのQOL向上に反映することができると考えている。

若手研究 (B) 武本 真治 講師

「歯周病原性菌の付着によるチタン合金の初期腐食評価」

歯科インプラントのフィクスチャー(チタン合金)が脱離する原因の1つとしてインプラント周囲炎のような細菌感染がある。本研究では、その細菌感染・付着によるチタン合金の局部的腐食機序を解明し、抗菌性を有するチタン合金の創製を目的としている。細菌付着によるチタン合金の腐食機序は、局所インピーダンス測定などの電気化学腐食測定と表面分析により総合的に検討を行う。また、添加元素やその添加量の異なるチタン合金についての細菌付着による耐食性について検討し、臨床での抗菌性を有するインプラントフィ

クスチャーとしてのチタン合金を創製し、歯科臨床へのチタン合金の普及の促進を目指す。

若手研究 (B) 高山 沙織 助教

「歯周病の新規予防物質としてのウナギガレクチンの有効性評価」

ウナギ体表粘液中に存在し、宿主感染防御に関与する生体機能性タンパク質レクチンの、歯周病原細菌バイオフィーム形成に対する阻害効果や、抗菌活性を検討する。近年、細菌感染への対応として、従来の薬物よりも耐性菌がでにくく、より安全な代替物として抗菌活性をもつ天然物質が注目されてきており、ウナギレクチンはその候補のひとつである。また、ヒト唾液成分シスタチンと同じシステインプロテアーゼインヒビターでもあり、歯周病原細菌に対する阻害作用をもつ可能性は高い。ウナギは日本において一般的な食材であり、臨床への応用にも広く理解が得やすいと考えられ、将来的に歯磨剤や含嗽剤中の有効成分として利用するなどして、歯周病の予防や治療への貢献が期待される。

若手研究 (B) 衣松 高志 講師

「プライマリーシリアの特性を応用した新規歯周組織再生治療の確立」

プライマリーシリア(一次繊毛)はほとんどの細胞が有する構造の一つであり、その機能として体幹の左右決定、および骨形成におけるシグナル伝達に関与することが知られている。歯根膜は、歯の移動に伴い周囲への骨添加と骨吸収を短期間に生ずる組織であるが、その機能を生かした骨再生治療は未だ発展途上である。そこで本研究では歯根膜における一次繊毛の骨形成に関連する働きを解明し、この構造の持つ骨形成の指向性、骨形成のアクティビティーを生かした新規再生治療の確立を目指す。具体的な臨床応用法として、この一次繊毛を活性化させた細胞の移植による骨増生の促進や骨欠損内に遊走する細胞に対する一次繊毛の活性化があげられる。

若手研究 (B) 中村 安孝 助教

「X染色体多型の利点を応用した法歯学的個人識別における弱点の克服」

現在のDNAによる個人識別は常染色体検査を

用いた方法が一般的で、Y染色体とミトコンドリアDNAが補佐として使用されており、それらのみでは事実上不可能な鑑定ケースも少なくない。

本研究はSTRと呼ばれるDNA反復配列構造部に個人差がある領域を利用し、X染色体上の18のSTRを検査する事でDNA鑑定の精度を向上させ、現在不可能とれている事例に対しての活用を目的としており、既に警察、外務省、厚生労働省等から依頼されるDNA鑑定に実際に活用して識別精度の向上に役立っている。

今後は硫黄島戦没者の遺骨の鑑定や長期保存された過去の事例の再鑑定等、高度に変性したDNA資料からも良好な検査結果を得るべく検査法の改良を課題とし、検査するSTRを増やす事や、SNPと呼ばれる一塩基多型構造を活用した新しいX染色体DNA鑑定法の作成を視野に入れている。

若手研究 (B) 菊池 有一郎 助教

「口腔内バイオフィーム形成及び歯周病原性発現におけるECFシグマ因子の役割」

本研究は、歯周病原細菌*P. gingivalis*に存在する6種類のECFシグマ因子について、それぞれが①*P. gingivalis*において環境ストレスを回避する役割を担っているか、②口腔内バイオフィーム形成におけるECFシグマ因子の重要性について、③*P. gingivalis*の病原性発現に重要な役割を担っているのか、以上3点を明らかにすることを目的とする。*P. gingivalis*の病原因子発現とECFシグマ因子の関連性が証明されれば、ECFシグマ因子の働きを阻害する新たな抗菌薬を創薬することが期待できる。ECFシグマ因子をターゲットにした創薬であれば、選択毒性が高く副作用も少ないと予想される。

■平成24年度科学研究費補助金研究者別交付一覧（本学研究代表者分）

平成24年11月1日現在

研究種目	研究代表者氏名	24年度 新規採 択	交付決定額 単位(千円)	研究課題名
			直接経費	
基盤研究(B)	眞木 吉信 教授		1,100	特定および要介護高齢者の口腔環境・機能のアセスメントと改善・向上プログラムの構築
基盤研究(B)	新谷 誠康 教授		3,900	遺伝性エナメル質形成不全症の原因探査と遺伝子診断法の企画
基盤研究(B)	吉成 正雄 教授	○	1,900	スタチン徐放性を制御した新機軸「母床骨改善型インプラント」の開発
基盤研究(B)	井上 孝 教授	○	5,100	セメント質・歯根膜複合体再生を目指した人工タンパクの開発
基盤研究(C)	津坂 憲政 准教授		500	TCR ζ鎖 mRNA 3' UTR 異常に伴う全身性エリテマトーデス発症機序
基盤研究(C)	杉原 直樹 准教授		500	根面う蝕のコホート研究に基づいたう蝕予防ガイドラインの作成
基盤研究(C)	兼子 智 講師		500	精子品質管理による不妊治療の安全性向上-精子頭部空胞とDNA損傷の関連性解析
基盤研究(C)	佐竹 良之 講師		700	培養口腔粘膜上皮シートと血管新生
基盤研究(C)	石上 恵一 教授		800	ガム咀嚼はストレスを緩和する
基盤研究(C)	山下秀一郎 教授		900	骨折治療メカニズムを応用した歯科インプラントにおける新規骨誘導法の開発
基盤研究(C)	服部 雅之 講師		900	歯科用高耐食チタン合金の多用途応用への試み
基盤研究(C)	見明 康雄 准教授		600	単結晶ナノチューブアパタイトの可能性
基盤研究(C)	井出 吉信 教授		500	骨梁構造における荷重伝達を考慮したインプラント偶発症抑止シミュレーション
基盤研究(C)	齋藤 淳 教授		500	歯周病原菌の複数菌感染による宿主細胞侵入機構の解析と新規制御法の検討
基盤研究(C)	水口 清 教授		800	DNA多型による法医学的個人識別精度の確実な進展を目指して
基盤研究(C)	宮内 潤 教授		1,200	ダウン症児における一過性骨髄増殖症の発症と自然治癒機構の分子・細胞生物学的解析
基盤研究(C)	島崎 潤 教授		1,200	口腔粘膜上皮下細胞から角膜実質細胞への分化誘導
基盤研究(C)	田中 一郎 教授		1,100	ビデオ画像のコンピュータ解析による顔面表情運動障害の診断・治療支援システムの開発
基盤研究(C)	澁川 義宏 准教授		900	変形性顎関節症における軟骨細胞の機能障害の解明および治療法の開発
基盤研究(C)	橋本 貞亮 准教授		1,300	歯肉付着上皮細胞におけるタイト結合構成タンパク質とバリア機構
基盤研究(C)	澁川 義幸 講師		500	象牙芽細胞における新規ATP輸送タンパク質を介する神経-石灰化情報伝達
基盤研究(C)	佐野 司 教授		800	顎関節疼痛を関節液蛋白濃度の可視化により診断するプロジェクト
基盤研究(C)	櫻井 学 講師		1,200	催眠・鎮静薬による健忘作用に対するアデノシン受容体の関与
基盤研究(C)	櫻井 敦明 助教		800	口腔内細菌叢解析に基づく齲蝕・哺乳齲蝕病因論のリコンストラクション
基盤研究(C)	石原 和幸 教授	○	1,600	Polymicrobial infectionによる病原性変化の分子機構の解明
基盤研究(C)	澤田 隆 准教授	○	1,000	接合上皮内側基底板制御因子の探索と特定
基盤研究(C)	櫻井 薫 教授	○	1,100	コラーゲン/β型リン酸三カルシウム複合体の骨伝導性と生体内崩壊性の評価
基盤研究(C)	矢島 安朝 教授	○	1,800	インプラント周囲上皮の口腔粘膜疾患に対するリスク評価法の確立
基盤研究(C)	柴原 孝彦 教授	○	2,400	次世代口腔がん検診システム・アルゴリズムの開発
基盤研究(C)	山本 信治 講師	○	2,000	口腔癌のマッピングアレイを用いた再発・転移関連遺伝子の解明
基盤研究(C)	片倉 朗 教授	○	1,300	唾液中の口腔癌関連タンパクをメタボローム解析でプロファイルする
基盤研究(C)	阿部 伸一 教授	○	1,300	顎顔面再建治療へ向けた上皮-間葉ハイブリッド型細胞シートの創製プロジェクト
挑戦的萌芽研究	井上 孝 教授		1,200	創製した人工ペプチドのバイオミネラレーション能による挑戦的歯髄治療
挑戦的萌芽研究	吉成 正雄 教授		900	結晶学的アプローチによる顎骨の力学的特性評価への挑戦

研究種目	研究代表者氏名	24年度 新規採 択	交付決定額 単位 (千円)	研究課題名
			直接経費	
挑戦的萌芽研究	新谷 誠康 教授	○	2,000	DMP1の分子進化的研究
若手研究 (B)	柴山 和子 助教		800	新規なバイオフィルム形成遺伝子から探る口腔カンジダ症の発症・進行メカニズム
若手研究 (B)	津村 麻記 助手		700	象牙芽細胞における刺激受容機構と象牙質形成の機能連関
若手研究 (B)	國分 克寿 助教		1,000	人工バイオ微小環境を利用した癌細胞転移能の動的評価系の開発
若手研究 (B)	坂本潤一郎 助教		500	拡散強調 MR イメージングによる舌癌リンパ節転移予測プロジェクト
若手研究 (B)	竜 正大 助教		1,100	義歯床用レジンに付着した微生物に対する抗菌性機能水の除菌効果
若手研究 (B)	荒野 太一 助教		1,400	ラジアルフロー型バイオリクターを用いたヒト間葉系幹細胞の三次元培養
若手研究 (B)	佐々木穂高 助教		700	骨代謝マーカー検査で顎骨の Bone Quality を評価する
若手研究 (B)	恩田 健志 助教		1,100	口腔扁平上皮癌の非侵襲的診断用検査ツールの開発
若手研究 (B)	大久保真衣 講師		500	嚥下機能維持増進プロジェクト-嚥下機能低下を予防する-
若手研究 (B)	国分 栄仁 助教	○	1,100	<i>Treponema denticola</i> の細胞侵入に関する病原性の解明
若手研究 (B)	佐藤 正樹 PF	○	1,500	象牙芽細胞における歯内治療薬の作用と応用：侵害刺激受容と修復象牙質形成の機能連関
若手研究 (B)	山田 将博 助教	○	700	歯肉線維芽細胞による骨芽細胞および骨膜細胞の機能発現の充進
若手研究 (B)	添田 亮平 助教	○	900	チューイング力がストレス緩和に及ぼす影響
若手研究 (B)	武本 真治 講師	○	1,300	歯周病原性菌の付着によるチタン合金の初期腐食評価
若手研究 (B)	高山 沙織 助教	○	1,500	歯周病の新規予防物質としてのウナギガレクチンの有効性評価
若手研究 (B)	衣松 高志 講師	○	1,100	プライマリーシリアの特性を応用した新規歯周組織再生治療の確立
若手研究 (B)	中村 安孝 助教	○	1,600	X染色体多型の利点を応用した法医学的個人識別における弱点的克服
若手研究 (B)	菊池有一郎 助教	○	1,800	口腔内バイオフィルム形成及び歯周病原性発現における ECF シグマ因子の役割
研究活動スタート支援	塚越 絵里 非常勤講師		1,200	唾液腺に発現するジアゼパム結合阻害因子 (DBI) を介した口腔乾燥の分子機構

人物往来

■国内見学者来校

千葉校舎・千葉病院

- 関東鍼灸専門学校 (学生 35 名、教員 4 名)
平成 24 年 10 月 2 日 (火) 解剖学実習室見学
- さいたま赤十字看護専門学校 (学生 33 名、教員 2 名)
平成 24 年 10 月 5 日 (金) 解剖学実習室、解剖標本室、千葉病院見学
- 三河歯科衛生専門学校 (学生 27 名、教員 2 名)
平成 24 年 10 月 26 日 (金) 解剖標本室見学
- 旭川歯科学院専門学校 (学生 50 名、教員 3 名)
平成 24 年 11 月 8 日 (木) 解剖標本室、千葉病院、歯科衛生士専門学校見学
- 横浜市立盲特別支援学校 (学生 21 名、教員 9 名)
平成 24 年 11 月 16 日 (金) 解剖学教室、解剖学実習室、解剖標本室見学

市川総合病院

- 東京ベイ・浦安市川医療センター (内科医師 1 名、看護師 1 名、薬剤師 1 名)
平成 24 年 10 月 23 日 (火) 糖尿病・内分泌センター見学
- 公益財団法人脳血管研究所美原記念病院 (医師 1 名、師長 4 名、主任 2 名、NST 療法士 1 名、言語聴覚士 2 名、介護福祉士 1 名 合計 11 名)
平成 24 年 10 月 29 日 (月) 市川総合病院見学
- 杏林大学保健学部臨床検査技術学科 (学生 5 名、教員 1 名)
平成 24 年 11 月 11 日 (日) 角膜センター見学

■海外出張

- 西井 康助教、立木千恵診療教員 (歯科矯正学)
4th World Implant Orthodontic Conference 2012

- に出席、および発表のため、平成24年10月8日(月)から14日(日)までオーストラリア・シドニーへ出張。
- 飯島俊彦大学院生(口腔インプラント学)
EAO(European Association for Osseo-integration 2012)に出席、および発表のため、平成24年10月10日(水)から15日(月)まで、デンマーク・コペンハーゲンへ出張。
 - 福田謙一准教授(水病・口腔健康臨床科学)
3rd China-ASEAN Forum on Dentistry 2012に参加、講演のため、平成24年10月10日(水)から13日(土)まで中国・南寧へ出張。
 - 小坂橋俊哉教授、大内貴志講師、西澤秀哉臨床専修医(市病・麻酔科)
2012年度アメリカ麻酔学会(American Society of Anesthesiologists Annual Meeting 2012)に出席、および発表のため、大内貴志講師は平成24年10月12日(金)から16日(火)まで、小坂橋俊哉教授、西澤秀哉臨床専修医は平成24年10月13日(土)から18日(木)まで、アメリカ・ワシントンDCへ出張。
 - 安藤暢敏教授(市病・外科)
国際食道疾患会議第13回世界大会に出席のため、平成24年10月15日(月)から23日(火)まで、イタリア・ベニスへ出張。
 - 山根淳一助教(市病・整形外科)
11th CSRS Instructional Course Hands on Cadaverに参加のため、平成24年10月17日(水)から23日(火)までスペイン・バルセロナへ出張。
 - ピッセン弘子教授(水病・眼科)
韓国カトリック大学記念シンポジウムに出席のため、平成24年10月19日(金)から21日(日)まで韓国・ソウルへ出張。
 - 新谷誠康教授、今井裕樹講師、山下治人助教(小児歯科学)、荒井亮臨床専門専修科生(水病・口腔健康臨床科学)
同済大学児童口腔医学研究所との共同研究及び学術交流のため、平成24年10月22日(月)から26日(金)まで中国・上海へ出張。
 - 石上恵一教授(スポーツ歯学)
The 16th China International Symposium on Clinical Dental Technology in Shanghaiでの講演、およびアジアスポーツ歯科医学会設立のための打合せのため、平成24年10月23日(火)から28日(日)まで中国・上海へ出張。
 - 武田友孝准教授(スポーツ歯学)
Functional Near Infrared Spectroscopy Conference 2012に参加のため、平成24年10月25日(木)から11月1日(木)までイギリス・ロンドンへ出張。
 - 眞木吉信教授(社会歯科学)、大久保真衣講師(摂食・嚥下リハビリテーション)、原 睦喜大学院生(解剖学)
IADH 2012(International Association for Disability and Oral Health)に出席、および発表のため、眞木吉信教授は、平成24年10月25日(木)から30日(火)まで、大久保真衣講師は平成24年10月28日(日)から11月2日(金)まで、原睦喜大学院生は平成24年10月26日(金)から11月1日(木)まで、オーストラリア・メルボルンへ出張。
 - 山内智博講師(市病・口腔がんセンター)
第11回日本-ボリビア国際消化器シンポジウムに参加、および講演のため、平成24年10月30日(火)から11月6日(火)までボリビア多民族国・スクレへ出張。
 - 坂本輝雄講師、野嶋邦彦講師(歯科矯正学講座)
45th Annual Scientific Congress Korean Association of Orthodontists 4th Joint Symposium of KAO and JOSに参加、および発表のため、平成24年11月1日(木)から4日(日)まで韓国・ソウルへ出張
 - 永野俊介レジデント(歯科矯正学)、岩田直晃レジデント(水病・口腔健康臨床科学)
南カリフォルニア大学との医局交流、症例発表のため、平成24年11月4日(日)から11日(日)まで、アメリカ・ロサンゼルスへ出張。
 - 島崎 潤教授、佐竹良之講師、富田大輔助教、溜 裕美子助教(市病・眼科)
AAO(American Academy of Ophthalmology 2012)に出席のため、島崎 潤教授は平成24年11月8日(木)から15日(木)まで、佐竹良之講師は平成24年11月9日(金)から15日(木)まで、富田大輔助教、溜 裕美子助教は平成24年11月8日(木)から14日(水)まで、アメリカ・シカゴへ出張。
 - 津坂憲政准教授(市病・内科)
ACR Annual Meeting(米国リウマチ学会)に参加するため、平成24年11月10日(土)から16日(金)まで、アメリカ・ワシントンDCへ出張。
 - 篠崎尚史講師・センター長(角膜センター)
第2回BIG V&S(ヒト細胞・組織・臓器の臨床応用に関するグローバルサーベイランスのためのポーロニャ・イニシアチブ)プロジェクトのコンサルテーション会議に出席のため、平成24年11月13日(火)から18日(日)までイタリア・ローマへ出張。
 - 穴澤卯圭准教授(市病・整形外科)
17th The connective tissue oncology society (CTOS) Annual Meetingに出席、および発表のため、平成24年11月13日(火)から19日(月)まで、チェコ共和国・プラハへ出張。
 - 高野正行准教授、濱田裕嗣レジデント、古瀬 健専修科生(水病・口腔健康臨床科学)
第10回アジア口腔顎顔面外科学会学術大会(10th Asian Congress on Oral and Maxillofacial

- Surgery) に出席、および発表のため、平成24年11月15日(木)から19日(月)までインドネシア・バリへ出張。
- 野村武史講師(口腔外科学)、山本信治講師(市病・口腔がんセンター)
UK-Japan Joint Symposium and Working-group Meeting on Oral and Head Neck Cancer に出席、および発表のため、平成24年11月23日(金)から29日(木)までイギリス・ロンドンへ出張。
- 阿部伸一教授(解剖学)
台北医学大学口腔医学院において講義および台湾歯科衛生学会において講演を行うため、平成24年11月24日(土)から26日(月)まで台湾・台北へ出張。
- 原田裕久准教授(市病・外科)
ステントグラフト「Zenith Fenestrated」製品トレーニング、および症例見学のため、平成24年11月25日(日)から30日(金)までオーストラリア・メルボルンへ出張。
- 篠崎尚史講師・センター長(角膜センター)
Asia Cornea Society(アジア角膜学会)主催の第3回隔年次会議に出席のため、平成24年11月26日(月)から30日(金)までフィリピン・マニラへ出張。

大学日誌

平成24年10月

- 1(月) 1～4年生後期授業開始
学年主任・副主任会
臨床研修管理小部会
歯科衛生士専門学校1年生後期授業開始
歯科衛生士専門学校登院式
防火・防災安全自主点検日
- 3(水) リスクマネージメント部会
ICT会議
歯科衛生士専門学校2年生臨床実習開始
医療監視(市病)
口腔健康臨床科学講座会(水病)
- 4(木) 感染制御委員会(市病)
ICT委員会(市病)
- 9(火) 給食委員会(水病)
- 10(水) 大学院運営委員会
大学院研究科委員会
褥瘡対策委員会(市病)
ICU運営委員会(市病)
リスクマネージメント部会(水病)
薬事委員会(水病)
医療機器安全管理委員会(水病)
- 11(木) カルテ指導委員会
第360回大学院セミナー
午後のリサイタル(市病)
手術室運営委員会(市病)
- 12(金) ICLS講習会(市病)
感染予防対策チーム委員会(水病)
- 15(月) 1年生インフルエンザワクチン接種
病院運営会議
個人情報保護委員会
医療安全管理委員会
感染予防対策委員会(ICC)
臨床教育委員会
医局長会
医療安全研修会
環境清掃日
- 15(月) 危険物・危険薬品廃棄処理日
医療安全管理委員会(市病)
- 16(火) 臨床教授連絡会
講座主任教授会
人事委員会
- 17(水) 衛生委員会
CPC(市病)
- 18(木) 2～6年生インフルエンザワクチン接種
千葉校舎課長会
業務連絡会
教養科目協議会
高度・先進医療委員会、
歯科衛生士専門学校推薦入学選考I期
診療録指導委員会(水病)
医療安全管理委員会(水病)
感染予防対策委員会(水病)
個人情報保護委員会(水病)
医療連携プロジェクト委員会(水病)
科長会(水病)
- 19(金) 歯科衛生士専門学校推薦入学選考委員会
- 20(土) 第294回東歯学会(総会)
患者サロン(市病)
- 21(日) 第294回東歯学会(総会)
[於：水道橋校舎]
- 22(月) 教職員インフルエンザワクチン接種
[～24日]
医療連携委員会
第116回歯科医学教育セミナー
機器等安全自主点検日
NSTカンファレンス(市病)
- 23(火) データ管理者会議
カルテ整備委員会
診療記録管理委員会
第361回大学院セミナー
医療サービスに関する検討会
- 24(水) 糖尿病ケアチームカンファレンス
(市病)

24 (水)	衛生委員会(水病) データ管理者会議(水病) 病院連絡協議会(水病) 診療録管理委員会(水病)	12 (月)	地域連携委員会(市病)
25 (木)	振替授業(金曜日分) 2～6年生インフルエンザワクチン接種 部長会(市病) 管理診療委員会(市病)	13 (火)	臨床教授連絡会 講座主任教授会(推薦・帰国・留学生選 抜、編入学A、学士等選抜A合格判定を 含む) 人事委員会 歯科衛生士専門学校臨床実習委員会 薬事委員会(市病)
26 (金)	東歯祭準備 災害対策実施部会(市病)	14 (水)	基礎教授連絡会 大学院運営委員会 大学院研究科委員会 ICU運営委員会(市病)
27 (土)	第44回東歯祭[～28日]		リスクマネージメント部会(水病)
29 (月)	東歯祭片付け 電子カルテシステム運用管理委員会 (市病)		薬事委員会(水病) 医薬品安全管理委員会(水病) 医療機器安全管理委員会(水病)
30 (火)	振替授業(月曜日分) 6年生第3回総合学力試験[～31日]	15 (木)	千葉校舎課長会 業務連絡会 教養科目協議会[於：さいかち坂校舎] 高度・先進医療委員会 環境清掃日 危険物・危険薬品廃棄処理日 部長会(市病) 診療録指導委員会(水病) 医療安全管理委員会(水病) 感染予防対策委員会(水病) 個人情報保護委員会(水病) 医療連携プロジェクト委員会(水病) 科長会(水病)
平成24年11月			
1 (木)	推薦・帰国・留学生選抜、編入学A、 学士等選抜A願書受付開始[～6日] 総合講義検討委員会 防火・防災安全自主点検日 感染制御委員会(市病) ICT委員会(市病)	16 (金)	歯科衛生士専門学校3年生修学旅行 [～17日]
2 (金)	災害対策実施部会(市病)	17 (土)	修学指導関係者・父兄個別面談会 (第1～6学年) 第4学年保護者説明会 患者サロン(市病)
3 (土)	停電[一般系][～11/4](市病)	19 (月)	公認会計士中間監査[～22日] 医療連携委員会
5 (月)	平成24年度大学院紹介 [於：水道橋校舎] 臨床研修管理小部会 東京都エイズ診療従事者臨床研修 (第1日目)(水病)	20 (火)	第117回歯科医学教育セミナー 機器等安全自主点検日 理事会(法人)
6 (火)	推薦・帰国・留学生選抜、編入学A、 学士等選抜A願書受付締切 東京都エイズ診療従事者臨床研修 (第2日目)(水病)	21 (水)	振替授業(金曜日分) 衛生委員会 第362回大学院セミナー 輸血療法委員会(市病) 褥瘡対策委員会(市病) CPC(市病)
7 (水)	リスクマネージメント部会 ICT会議 口腔健康臨床科学講座会(水病)	22 (木)	管理診療委員会(市病)
8 (木)	カルテ指導委員会 手術室運営委員会(市病)	24 (土)	第4学年保護者説明会 第7回東京歯科大学公開講演会
9 (金)	ICLS講習会(市病) 感染予防対策チーム委員会(水病)	26 (月)	大学院入学試験(I期)願書受付締切 電子カルテシステム運用管理委員会 (市病) NSTカンファレンス(市病) 公認会計士中間監査[～28日](水道橋校舎)
10 (土)	推薦入学選考、帰国子女・留学生特別 選抜、編入学試験A、学士等特別選抜 A [於：東京、大阪、福岡会場]		
12 (月)	病院運営会議 個人情報保護委員会 医療安全管理委員会 感染予防対策委員会(ICC) 医局長会 臨床教育委員会 医療安全研修会 公認会計士監査[～15日](市病) 医療安全管理委員会(市病)		

26 (月)	教職員研修会(水病)	28 (水)	衛生委員会(水病)
27 (火)	薬事委員会		データ管理者会議(水病)
	データ管理者会議		病院連絡協議会(水病)
	図書委員会		診療録管理委員会(水病)
	カルテ整備委員会	29 (木)	大学広報編集委員会
	診療記録管理委員会	30 (金)	災害対策実施部会(市病)
28 (水)	糖尿病ケアチームカンファレンス(市病)		

【訂正】

第256号の記事中に次の間違いがありましたので、お詫びして訂正致します。

5頁 左段23行目 (誤) 女子100M → (正) 男子100M

左段24行目 (誤) 女子200M → (正) 男子200M

東京歯科大学広報 編集委員

橋本貞充 (委員長)

阿部潤也 石塚順子 井上直記 上田貴之 内田篤志 王子田 啓 狩野龍二

椎名 裕 高橋俊之 武本 桂 中村弘明 日塔慶吉 旗手重雅 古澤成博

前田健一郎 百崎和浩 山本祐樹

(平成24年11月現在)



編集後記

平成24年10月28日の夜、2,000名を超える来場者を得て、千葉キャンパスにおける最後の東歯祭の幕が下りました。

ずっと昔。現在の市川総合病院が大学のグラウンドだった頃…。教養課程では、1、2年生たちがみんなで仮装して市川の街を練り歩いて東歯祭(市川祭)をアピールし、ポプラ並木のある広い校庭ではファイアーストームが焚かれました。水道橋の専門課程では、歴史のある狭い迷路のような建物の中で、たくさんの講座の展示やクラブの発表が企画され、訪れた人たちに賑わいました。

千葉に移ってからは、広い緑のキャンパスに、大きなゲートやステージがつくられ、恒例の模擬店と共に、クラブの演奏やパフォーマンスが、近隣の人たちを巻き込んで賑やかに繰り広げられてきました。

そして…、次なるステージ。

東京歯科大学の歴史の中で、ひとつとして同じものがない、44年間の東歯祭の1回1回が、その時々々の東歯祭実行委員会のメンバーたちと、そこに参加した学生たちのたしかな情熱の結晶です。

今年の東歯祭のスローガンは「継承」。委員長の3年生杉浦貴則くんのメッセージの中に、何ヶ月ものあいだ一緒に頑張った仲間やまわりの人々への感謝の言葉と共に、「仲間の大切さと、ひとつのものを作りあげていく難しさを痛感した。」とありました。委員長としての責任とプレッシャーの中で、不安やつらさの方が大きかったのでしょうか。それでも、信頼できる仲間たちに支えられ、一緒に「自分たちの東歯祭」を造りあげました。ひとつのことをやり終えたという達成感と、やれるんだという自分への自信を得るまでの課程そのものが、次の世代に連綿と継承されていくものなのかもしれません。

2013年、秋。真っ白な新しい水道橋のキャンパスのうえに、新3年生をリーダーとした次なる東歯祭実行委員たちによって、いったいどんな思いを継承した東歯祭が描かれていくのでしょうか。

大学院のElective study program として、大学院1年生の井上健児くんと市野茂人くんの二人が、鹿児島大学との共催によってカリフォルニアで開かれた、「国際プロフェッショナル養成プログラム」と「海外研修基礎コース」に参加しました。将来の研究者や臨床のスペシャリストを目指す若い人たちが、歯科という世界を超えて、様々な業種に進む人たちと国際的な交流を持ち、視野を広げていくということの素晴らしさを感じます。はじめの一步を踏み出すちょっとした勇気が、将来の自分の方向性を大きくプラスに変えていきます。

(広報・公開講座部長：橋本貞充)



「千葉キャンパス最後の東歯祭。先輩たちと一緒に過ごした1年生たちの目には、どんな風景が刻まれたのでしょうか。水道橋での次なる新しい東歯祭は、彼らがつくり、そして、伝統を継承していきます。」